



Microsoft Enterprise Mobility + Security

無料評価版のスタートアップ ガイド

Cloud Platform

Microsoft Enterprise Mobility + Security

無料評価版のスタートアップ ガイド

第 4 版

日本マイクロソフト株式会社

Published: 2017 年 7 月 1 日

概要

このドキュメントについて

このドキュメントは、マイクロソフトのクラウド ベースのエンタープライズ モビリティ (Enterprise Mobility) ソリューションである Microsoft Azure Active Directory Premium、Microsoft Intune、Microsoft Azure Information Protection Premium、および Microsoft Cloud App Security を対象に、これらのサービスを含む Microsoft Enterprise Mobility + Security 無料評価版、および各サービス個別の無料評価版の利用を開始するための手順をステップ バイ ステップで解説します。

対象ユーザー

このドキュメントは、企業や組織において IT インフラストラクチャの設計、導入、運用を担当する管理担当者、データベース管理者、および IT プロフェッショナルを対象としています。

最新情報

Microsoft Azure では、新しいサービスや新機能のプレビュー提供や GA (一般リリース) が日々行われています。また、一部のサービスは中止されたり、仕様が大きく変更されたり、クライアント コンポーネント (クライアントにインストールするアプリやエージェント) が更新されたりすることもあります。サービスの更新情報および今後のロードマップについては、以下のサイトで確認できます。

サービスの更新情報

➔ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/>

改訂履歴

版	発行日	内容
第 1 版	2015 年 4 月 8 日	初版
第 2 版	2016 年 2 月 15 日	2016 年 2 月時点の最新情報を反映
第 3 版	2016 年 12 月 21 日	2016 年 11 月時点の最新情報を反映
第 4 版	2017 年 7 月 1 日	2016 年 6 月時点の最新情報を反映

著作権情報

このドキュメントは、"現状のまま" 提供されます。このドキュメントに記載されている情報 (URL などのインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更することがあります。

このドキュメントは、Microsoft 製品の知的財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。お客様は、内部的な参照目的に限り、ドキュメントを複製して使用することができます。

© 2017 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Active Directory、Azure、Internet Explorer、Office 365、Silverlight、Windows、Windows PowerShell、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。



制限事項

マイクロソフトのクラウド サービスは、日々、改善および拡張されています。このドキュメントで説明しているサービス内容、ポータル UI、操作手順は、将来、変更になることがあることがあります。

目次

1. はじめに	4
サービスの購入方法の選択肢	4
2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する	7
Enterprise Mobility + Security E5 試用版にサインアップする	7
Microsoft Azure 無料試用版にサインアップする	10
管理ポータルについて	12
ユーザーの作成とライセンスの割り当て	15
次のステップ	19
3. 各サービスの試用版で個別に評価する	20
3.1 Azure AD Premium の評価を開始する	20
3.2 Microsoft Intune の評価を開始する	32
3.3 Azure Information Protection Premium の評価を開始する	38
3.4 Cloud App Security の評価を開始する	47
4. まとめ	51
製品サイト	51
ドキュメント	51
付録	52
Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのコスト利点	52
評価版から有料サブスクリプションへの移行について	53
試用期間の延長について	57
多要素認証 (MFA) で組織アカウントの保護を強化する	58
Azure AD ポータルの条件付きアクセス	60

1. はじめに

このドキュメントでは、マイクロソフトがエンタープライズ モビリティ ソリューションとして提供する以下のサービスを Microsoft Enterprise Mobility + Security サブスクリプション ライセンスの試用版を利用して評価を開始する手順について、「[Enterprise Mobility + Security の評価を開始する](#)」で説明します。

- **Microsoft Azure Active Directory Premium (Azure AD Premium)**
- **Microsoft Intune**
- **Microsoft Azure Information Protection Premium**
- **Microsoft Cloud App Security**

Enterprise Mobility + Security サブスクリプション試用版では、これらのサービスをまとめて、**90 日間**、無料で評価できます。各サービスには個別の試用版（通常、**30 日間**）も用意されており、特定のサービスだけを評価したり、現在ご利用中の他のサービスに追加して評価したりできます。各サービスの無料の試用版を個別にサインアップして評価する手順については、「[3. 各サービスの試用版で個別に評価する](#)」で説明します。

無料の評価期間終了後は、データを損なうことなく、有料サブスクリプションに移行することが可能です。詳しくは、「[付録 評価版から有料サブスクリプションへの移行について](#)」を参照してください。

サービスの購入方法の選択肢

現在、ご利用中のサービスによっては、既に機能が含まれる場合、簡単に追加できる場合、あるいはお得なスイート ライセンスを利用できる場合があります。無料試用版からスムーズに移行するために、最適な購入方法を検討して、その無料試用版から評価を開始することをお勧めします。

- **Enterprise Mobility + Security サブスクリプション**・・・ Enterprise Mobility + Security (EMS) サブスクリプションは、Azure AD Premium、Microsoft Intune、Azure Information Protection、Microsoft Advanced Threat Analytics (オンプレミス向けのセキュリティ ソリューション) などを含み、個別にサービスを購入するよりもお得です。Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのコスト的な利点については、「[付録 Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのコスト利点](#)」で説明しています。なお、Microsoft Advanced Threat Analytics は、このドキュメントの対象外であり、評価手順について説明していません。
- **ご利用中の Azure AD**・・・既に Microsoft Azure、Office 365、または Microsoft Intune のサブスクリプションをお持ちの場合は、無料の Azure AD Free エディションが付属しています。これらのサブスクリプションでは、オンラインで Azure AD Premium を追加購入できます。
- **ご利用中の Office 365 サブスクリプション**・・・Office 365 Enterprise E3 および E5 プランには Azure Information Protection の機能が含まれます。Azure Information Protection の機能を含まないプラン (Office 365 Business Essentials や Office 365 Enterprise E1 など) については、Azure Information Protection Premium または Enterprise Mobility + Security サブスクリプショ

ンを追加購入することで、Azure Information Protection の機能をご利用いただけます。また、Azure Information Protection の一部の高度な機能（使用状況の追跡、RMS コネクター、自動分類による保護機能など）は、Azure Information Protection Premium または Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのみで提供され、Office 365 Enterprise E3 および E5 プランだけでは利用できません。これらの機能を利用するには、Azure Information Protection Premium または Enterprise Mobility + Security サブスクリプションを追加購入する必要があります。

- **Secure Productive Enterprise サブスクリプション** … Secure Productive Enterprise (旧称、Enterprise Cloud Suite) は、Office 365 Enterprise (Office 365 ProPlus 生産性アプリケーションを含む)、Enterprise Mobility + Security、Windows 10 Enterprise をセットで提供するソリューションです。Enterprise Agreement、Enterprise Subscription Agreement、マイクロソフト製品/サービス契約 (MPSA)、およびクラウド ソリューション プロバイダー プログラム (CSP) を通じて最小 250 シートから購入できます。

Secure Productive Enterprise の概要

➡ <https://www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/product-licensing/secure-productive-enterprise.aspx>



2016 年 9 月および 10 月におけるサブスクリプションの変更について

2016 年 8 月以前の Azure AD Premium サブスクリプションは、2016 年 9 月より Azure AD Premium P1 サブスクリプションに名称が変更されました。提供される機能に変更はありません。また、2016 年 9 月より、Azure AD Premium P2 サブスクリプションの提供が開始されました。Azure AD Premium P2 サブスクリプションは、Azure AD Premium P1 の全機能に加えて、ID 保護サービスである Azure AD Identity Protection (IP) および特権管理サービスである Azure AD Privileged Identity Management (PIM) を利用可能です。

2016 年 9 月以前の Azure Rights Management (Azure RMS) Premium サブスクリプションは、2016 年 10 月より Azure Information Protection P1 サブスクリプションに名称が変更され、分類ラベルによる保護機能が追加されました。また、2016 年 10 月より、Azure Information Protection P2 サブスクリプションの提供が開始されました。Azure Information Protection P2 サブスクリプションは、Azure Information Protection P1 の全機能に加えて、ドキュメントやメールの内容に基づいた自動分類による保護機能が提供されます。

2016 年 9 月以前の Enterprise Mobility Suite サブスクリプションは、2016 年 10 月より Enterprise Mobility + Security E3 サブスクリプションに名称が変更されました。提供される機能に変更はありません。また、2016 年 10 月より Enterprise Mobility + Security E5 サブスクリプションの提供が開始されました。Enterprise Mobility + Security E5 は、Azure AD Premium P2、Azure Information Protection Premium P2、および Microsoft Cloud App Security を含みます。

2016 年 9 月以前の Enterprise Cloud Suite (ECS) サブスクリプションは、2016 年 10 月より Secure Productive Enterprise (SPE) E3 サブスクリプションに名称が変更されました。また、2016 年 10 月より Secure Productive Enterprise (SPE) E5 サブスクリプションの提供が開始されまし

た。E3 と E5 の違いは、セットされる Office 365 Enterprise、Enterprise Mobility + Security、および Windows 10 Enterprise のプランの違いです。

旧サブスクリプション	新サブスクリプション	含まれる機能
Azure AD Premium	Azure AD Premium P1	Azure AD Premium と同等
なし	Azure AD Premium P2	P1 の全機能 + Azure AD IP、Azure AD PIM
Azure RMS Premium	Azure Information Protection P1	Azure RMS + 分類ラベル機能
なし	Azure Information Protection P2	P1 の全機能 + 自動分類機能
Enterprise Mobility Suite	Enterprise Mobility + Security E3	Azure AD Premium P1、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium P1、Microsoft Advanced Threat Analytics
なし	Enterprise Mobility + Security E5	Azure AD Premium P2、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium P2、Microsoft Advanced Threat Analytics、Microsoft Cloud App Security
Enterprise Cloud Suite	Secure Productive Enterprise E3	Office 365 Enterprise E3、Enterprise Mobility + Security E3、Windows 10 Enterprise E3
なし	Secure Productive Enterprise E5	Office 365 Enterprise E5、Enterprise Mobility + Security E5、Windows 10 Enterprise E5

2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する

マイクロソフトのエンタープライズ モビリティ ソリューションは、**90 日間**、無料で評価することができます。各サービスの試用版を個別にサインアップすることも可能ですが、マイクロソフトのクラウド サービスを始めて利用する場合は、Enterprise Mobility + Security E5 試用版にサインアップするのが簡単です。また、Enterprise Mobility + Security は個別にサービスを購入するよりもコスト的な利点があります。詳しくは、「[付録 Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのコスト利点](#)」を参照してください。

Enterprise Mobility + Security E5 試用版では、Azure AD Premium P2、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium P2、Cloud App Security のすべての機能を 90 日間評価できます。また、Enterprise Mobility + Security とともにサインアップする Microsoft Azure の試用版で、Azure 仮想マシンなどの Microsoft Azure の各種サービスを **30 日間**、無料で評価することができます。

各サービスの概要については、サービス個別の無料評価版の利用開始手順について説明している「[3. 各サービスの試用版で個別に評価する](#)」の以下の項で確認してください。

- ➔ [3.1 Azure AD Premium の評価を開始する > Azure Active Directory とは](#)
- ➔ [3.2 Microsoft Intune の評価を開始する > Microsoft Intune とは](#)
- ➔ [3.3 Azure Information Protection Premium の評価を開始する > Azure Information Protection とは](#)
- ➔ [3.4 Cloud App Security の評価を開始する > Cloud App Security とは](#)

Enterprise Mobility + Security E5 試用版にサインアップする

1. Internet Explorer (以下、IE) または Windows 10 の Microsoft Edge で以下の URL を開き、
[無料評価版にサインアップ >] をクリックします。

Enterprise Mobility + Security の概要

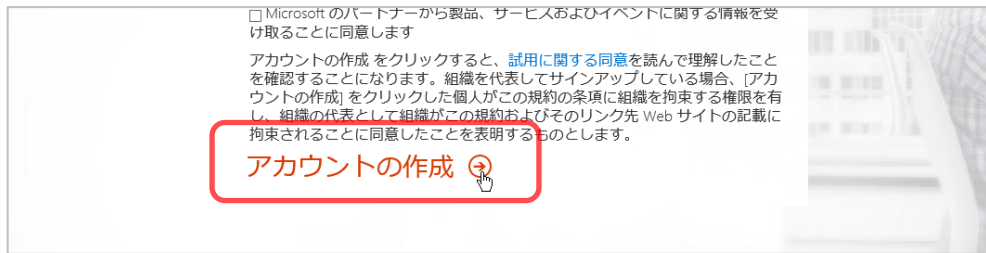
- ➔ <https://www.microsoft.com/ja-jp/cloud-platform/enterprise-mobility-security-trial>



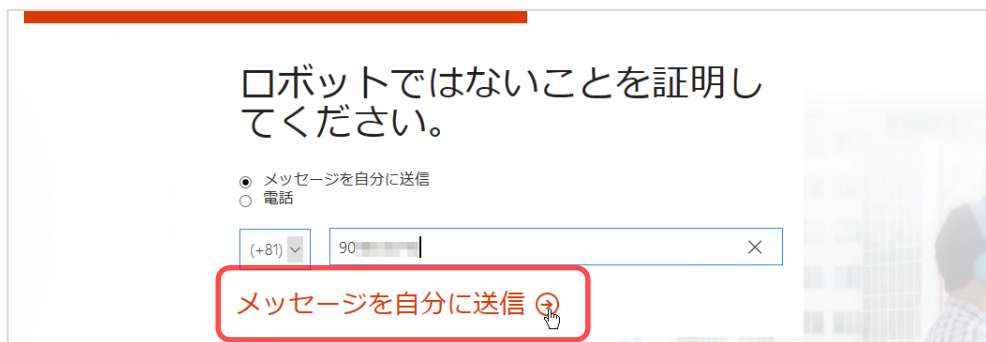
2. **Enterprise Mobility + Security E5 Trial** のサインアップ ページが表示されます。[ようこそ、必要事項をご記入ください] ページで、[会社の所在地 (国)] [姓] [名] [勤務先の電子メール アドレス] [勤務先の電話番号] [組織の規模] の情報を入力または選択し、[次へ →] をクリックします。

なお、既に有効な Office 365 サブスクリプションをお持ちで、テナント管理用の組織アカウントが利用可能な場合は、[サインイン] をクリックすることで、既存の Office 365 サブスクリプションで Enterprise Mobility + Security E5 試用版を簡単に有効化できます。

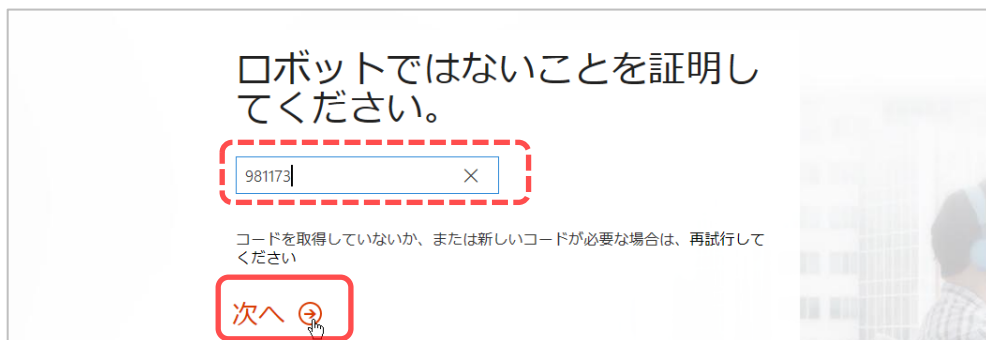
3. [ユーザー ID の作成] のページで、管理者用の組織アカウントのユーザー名を決定し、組織用のドメイン名として **ドメイン名.onmicrosoft.com** を取得します。**ドメイン名.onmicrosoft.com** は無料で取得することができ、Azure AD に組織用ドメインのディレクトリが準備されます。入力したドメイン名が利用可能なことを確認したら、ユーザーのパスワードを設定し、[アカウントの作成 →] をクリックします。



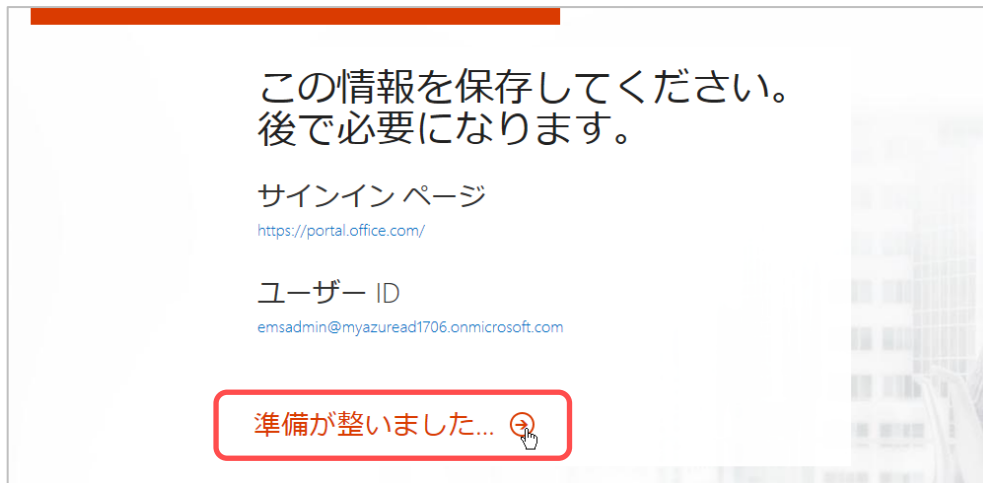
4. [ロボットではないことを証明してください] のページで、[メッセージを自分に送信] または [電話] を選択し、携帯電話やスマートフォンの電話番号を入力して、確認用のテキストまたは音声を送信します。



メッセージで確認用コードを入手したら、コードを入力して [次へ →] をクリックします。



5. Azure AD に組織用のディレクトリが準備され、管理者用の組織アカウントが作成されます。準備が整うと、[この情報を保存してください。後で必要になります。] ページに [準備が整いました ... →] と表示されます。このページに表示されている内容を控え、[準備が整いました ... →] をクリックします。この時点で、サインアップ時に指定した勤務先の電子メール アドレス宛に、Enterprise Mobility + Security E5 試用版のサインアップ完了に関する通知が送信されます。



作成される組織アカウントについて

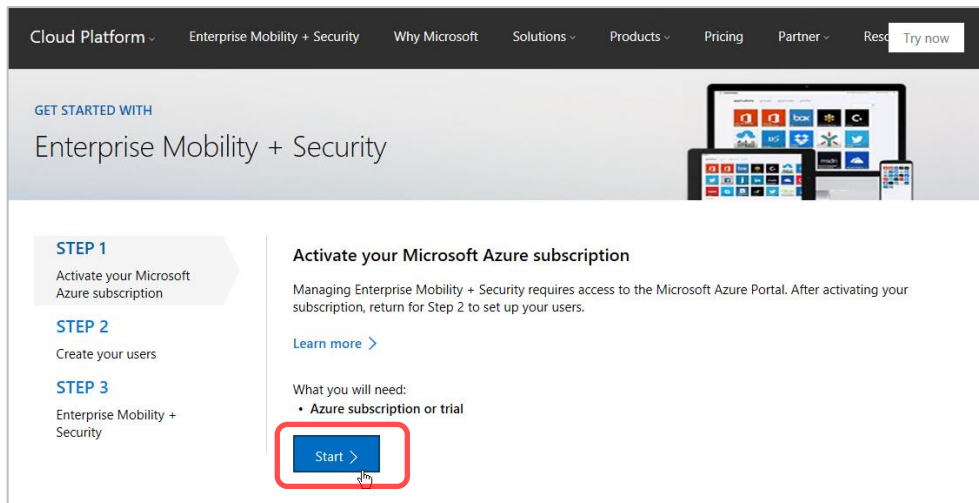
組織アカウントのユーザー ID (**ユーザー ID@ドメイン名.onmicrosoft.com**) は、Office 365 ポータルや Microsoft Intune のポータルにサインインするための管理者アカウントになります。また、このあとサインアップする Microsoft Azure のサービス管理者の組織アカウントになります。

このアカウントの資格情報が漏洩すると、テナントの管理権限が奪われてしまうため重大です。そのため、「[付録 多要素認証 \(MFA\) で組織アカウントの保護を強化する](#)」で説明する方法で、多要素認証を有効化し、アカウントの保護を強化することを強くお勧めします。

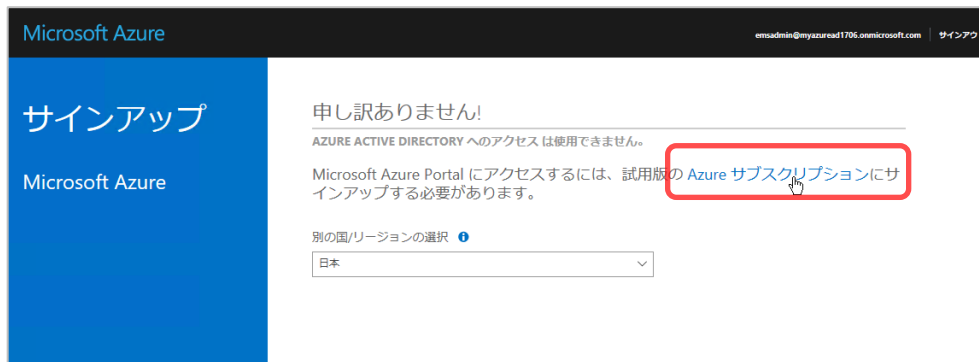
Microsoft Azure 無料試用版にサインアップする

続いて、Enterprise Mobility + Security E5 試用版へのサインアップで準備した管理者用の組織アカウントを使用して、Microsoft Azure 無料試用版にサインアップします。Enterprise Mobility + Security E5 に含まれる Azure AD Premium、Azure Information Protection Premium、Cloud App Security の機能を構成および管理するためには、Azure ポータルおよび Azure クラシック ポータルにアクセスするために、Microsoft Azure サブスクリプションが必要になります。

1. Enterprise Mobility + Security E5 試用版のサインアップが完了し、[準備が整いました... →] をクリックすると、[GET STARTED WITH Enterprise Mobility + Security] の [STEP 1 Activate your Microsoft Azure subscription] のページが開くので、[Start >] をクリックします。



2. Microsoft Azure のサインアップ ページに「申し訳ありません！ AZURE ACTIVE DIRECTORY へのアクセスは使用できません」と表示されます。ここで、「Azure サブスクリプション」をクリックして、Microsoft Azure 無料試用版へのサインアップを開始します。



3. Microsoft Azure 無料試用版へのサインアップに必要な情報を入力し、「サインアップ →」をクリックします。サインアップには、テキスト メッセージまたは音声によるコードの確認と、有効なクレジットカード情報の入力、契約への同意が必要です。なお、以前に Microsoft Azure 無料試用版へのサインアップに使用したことのあるクレジットカードは使用できない場合があります。





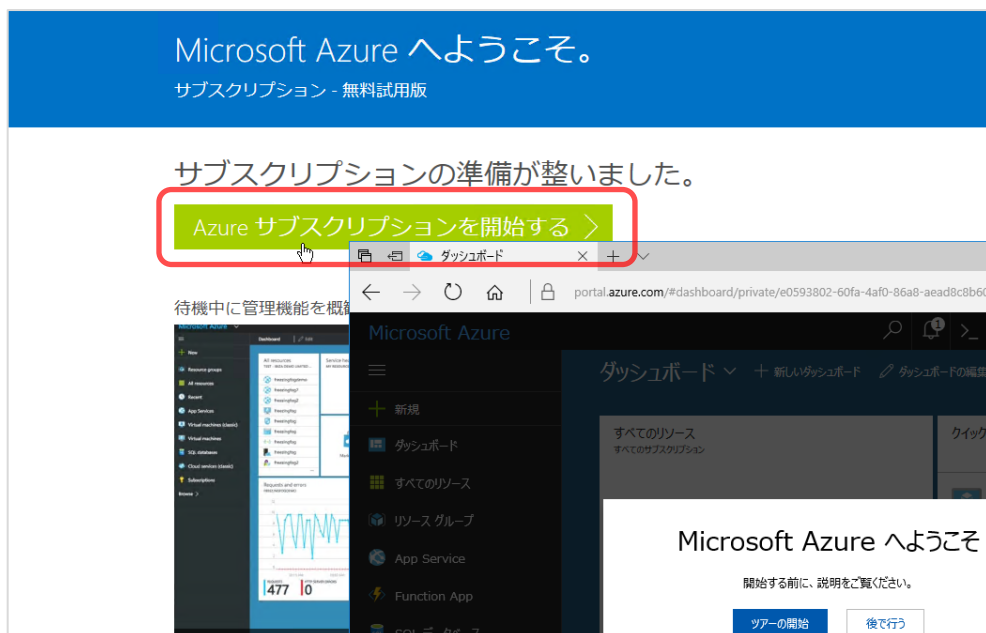
無料評価期間中の課金はありません

Microsoft Azure 無料試用版のサインアップのためにクレジット カード情報の入力は必須ですが、これは本人確認のプロセスの 1 つであり、無料評価期間中に課金が発生することはありません。

4. Microsoft Azure 無料試用版のサインアップが完了すると、Microsoft Azure 無料試用版の購入を確認する電子メール、および Azure AD に組織 ID 用のドメインが作成されたことを通知する電子メールが、Microsoft Azure サブスクリプションの連絡先メール アドレスに送信されます。



5. [Microsoft Azure へようこそ] のページに [サブスクリプションの準備が整いました] と表示されたら、[サービスの管理を開始する] をクリックして、Azure ポータルにサインインします。



管理ポータルについて

マイクロソフトのエンタープライズ モビリティの構成や管理には、以下の管理ポータルを使用します。Microsoft Intune 管理コンソールを除き、Microsoft Edge、Internet Explorer、Mozilla Firefox、Google Chrome、Apple Safari (macOS) などの主要な Web ブラウザーから利用可能です。

Office 365 管理センター

Office 365 管理センターは、Office 365 のサービスのための管理ポータルですが、Azure AD や Microsoft Intune のユーザーやグループの管理、試用版および有料サブスクリプション ライセンスの管理、ライセンスの購入の機能が統合されており、Office 365 サブスクリプションがなくても利用できます。

なお、Azure AD のクラシック ポータル、Microsoft Intune 管理コンソール、および Cloud App Security ポータルは、Office 365 管理センターの [管理センター] のリンクから開くこともできます。

➡ <https://portal.office.com/>

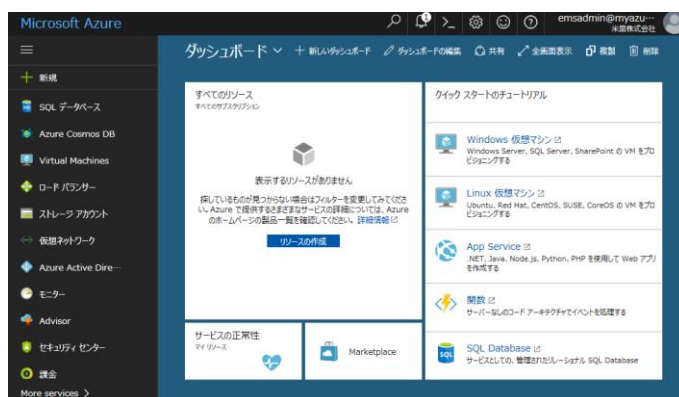


Azure ポータル

Microsoft Azure の標準の管理ポータルです。一部の機能は Azure クラシック ポータルにリダイレクトされます。

Azure AD の構成と管理は、以前は Azure クラシック ポータルを使用する必要がありましたが、2017 年 5 月より Azure ポータルに統合された管理機能が正式提供されました。

➡ <https://portal.azure.com/>



Azure クラシック ポータル

Microsoft Azure の以前の管理ポータルです。新しい Azure ポータルにまだ移行されていない管理機能は、Azure クラシック ポータルで操作する必要があり、新しい Azure ポータルから必要に応じてリダイレクトされます。

➡ <https://manage.windowsazure.com/>



Azure AD 管理センター

Azure ポータルで利用可能な Azure AD 関連の管理機能を 1 つのコンソールにまとめた、Azure AD のための新しいポータルです。2017 年 5 月に正式提供されました。

➡ <https://aad.portal.azure.com/>

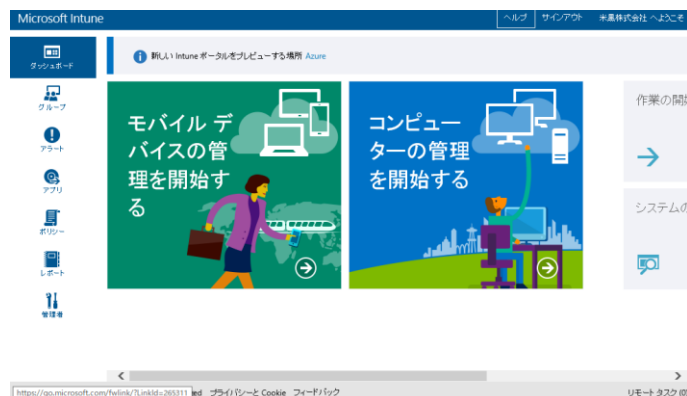


Microsoft Intune 管理コンソール

Microsoft Intune の従来からの管理ポータル (クラシック ポータル) です。

Microsoft Intune 管理コンソールには、Microsoft Silverlight が必要です。そのため、Internet Explorer 10 以降、Google Chrome バージョン 42 より前、または Mozilla Firefox バージョン 52 より前を使用する必要があります。

➡ <https://manage.microsoft.com/>

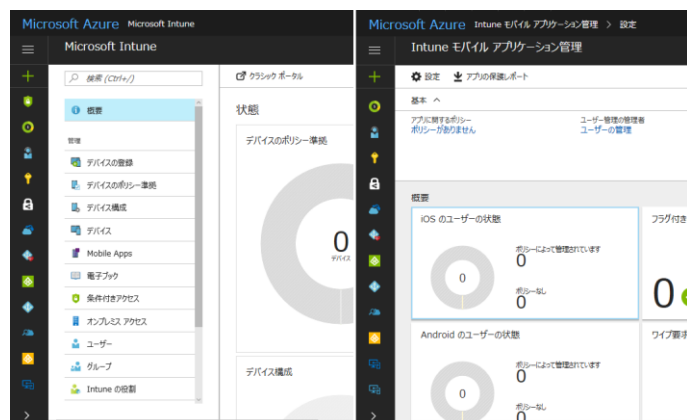


Microsoft Intune ポータル

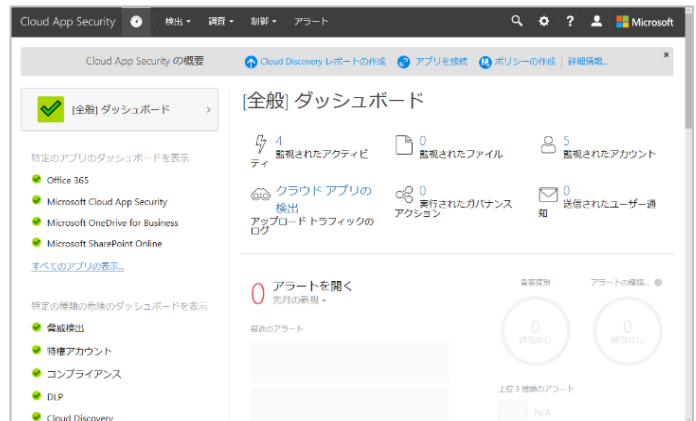
Azure ポータルに統合された、Microsoft Intune のための、ブラウザ非依存の新しいポータルです。2017 年 6 月にそれまでのプレビュー版から正式版になりました。

全体を管理するための [Microsoft Intune (Intune)] ブレードと、MAM 管理 (Windows Information Protection の構成を含む) に特化した [Intune モバイル アプリケーション管理 (Intune アプリ保護)] ブレードがあります。

(Azure ポータルに統合)



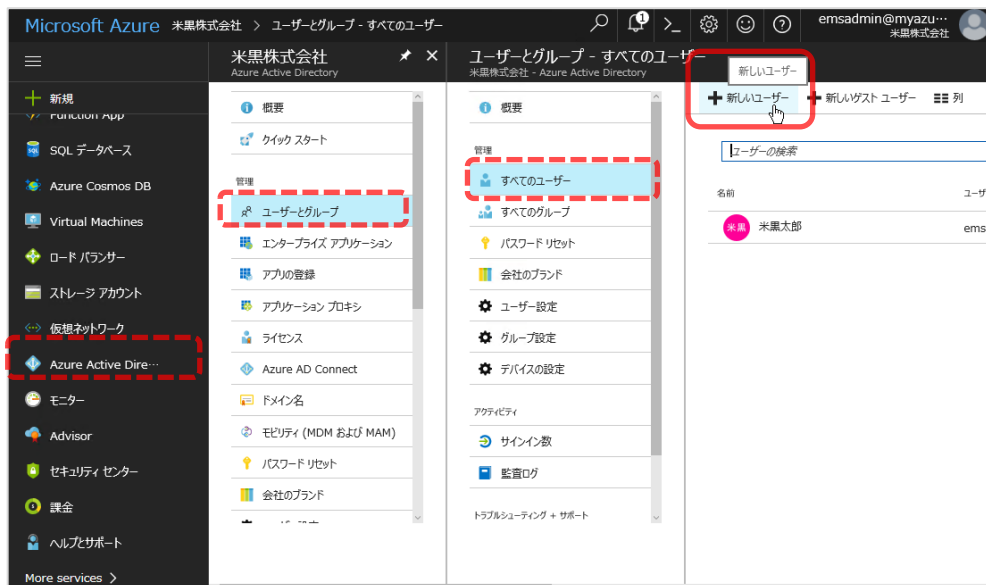
Cloud App Security のサービスの構成と管理のための専用のポータルです。



ユーザーの作成とライセンスの割り当て

Enterprise Mobility + Security E5 試用版および Microsoft Azure 試用版のサインアップが完了したら、次の手順で Azure AD のディレクトリに評価用ユーザーを作成し、Enterprise Mobility + Security E5 試用版のライセンスを割り当てます。ユーザーの作成は、Azure ポータル、Azure AD 管理センター、Office ポータルのいずれかで行うことができますが、ここでは Azure ポータルを使用する方法で説明します。Azure AD 管理センターを使用する場合も、同じ手順で行えます。

1. Azure ポータル (➡ <https://portal.azure.com/>) に、Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。
2. Azure ポータルまたは Azure AD 管理センターの [Azure Active Directory] ブレードを開き、[すべてのユーザーとグループ] [すべてのユーザー] の順番に開いて、[+ 新しいユーザー] をクリックします。

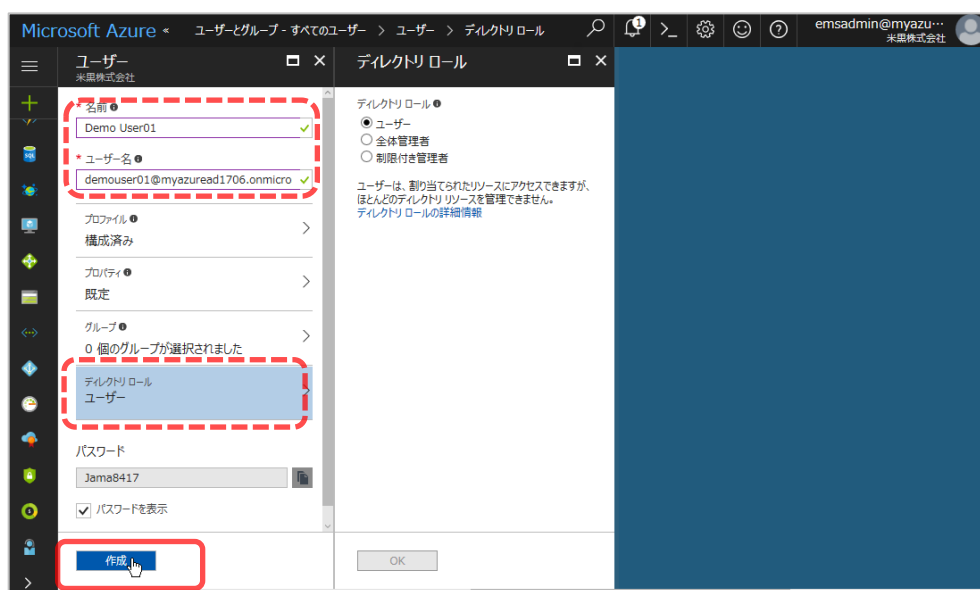


3. [ユーザー] ブレードで [名前] にユーザーの表示名を、[ユーザー名] に **ユーザー ID@ドメイン名.onmicrosoft.com** の形式でユーザーの ID を指定します。[ディレクトリ ロール] として [ユーザー] を選択したら、自動生成されるパスワードを控え、[作成] ボタンをクリックします。



ユーザーは初回サインイン時にパスワードの変更が必要

ユーザーの作成時に自動生成されるパスワードは一時パスワードであり、Office 365 のユーザー ポータル (→ <https://portal.office.com/>) やアクセス パネル アプリケーション (MyApps) ポータル (→ <https://myapps.microsoft.com/>) などにその ID で初めてサインインする際に使用します。一時パスワードによる認証に成功すると、ユーザー自身によるパスワードの再設定が要求されます。



4. ユーザーが正常に作成されたことを確認したら、同様の手順で必要な数のユーザーを作成します。

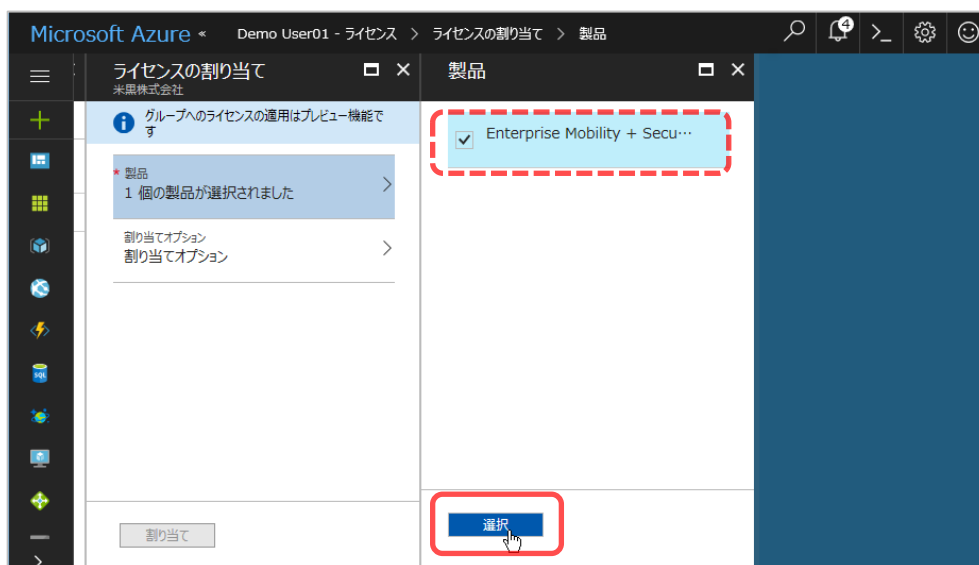


5. 作成したすべてのユーザーについて、ユーザーの [プロフィール] を開き、[利用場所] を設定します。
- [利用場所] の指定は、ライセンスの割り当てのために必須です。また、多要素認証で [会社電話] への音声通知を可能にする場合は (「[付録 多要素認証 \(MFA\) で組織アカウントの保護を強化する](#)」を参照)、[会社電話] に電話番号 (例えば東京 03-.....1234、内線 56 の場合、**+81 3.....1234x56**) を設定しておく必要があります。その他の項目は必要に応じて構成してください。例えば、既定ではユ

ユーザーの姓名から生成されたイメージがユーザーに設定されますが、写真をアップロードすることでイメージを変更できます。プロファイルの編集が完了したら、[保存] をクリックします。



6. 作成したすべてのユーザーについて、ユーザーの [ライセンス] を開き、[ライセンスの割り当て] の [製品] から [Enterprise Mobility + Security E5] ライセンスを選択します。



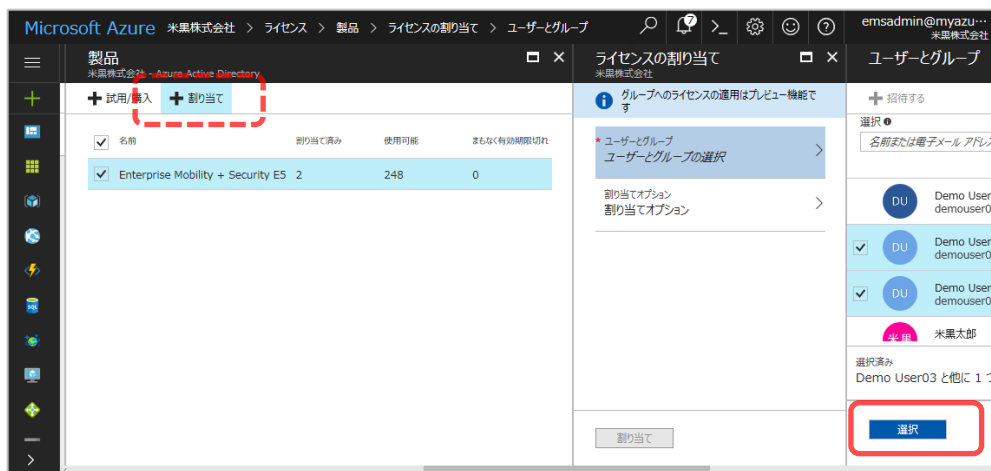
7. Enterprise Mobility + Security E5 に含まれる機能ごとのライセンス割り当てを必要に応じてカスタマイズします。通常は、すべての項目を [オン] の状態をオンのまま [OK] ボタンをクリックし、[ライセンスの割り当て] にある [割り当て] ボタンをクリックします。



8. ユーザーの「ライセンス」を開き、Enterprise Mobility + Security E5 が割り当てられたことを確認します。



9. ディレクトリの「ライセンス」から割り当て操作を行うと、複数のユーザーに一括でライセンスを割り当てることが可能です。



次のステップ

マイクロソフトのエンタープライズ モビリティの評価には、以下のドキュメントが参考になります。

Enterprise Mobility + Security

➔ <https://www.microsoft.com/ja-jp/cloud-platform/products-Enterprise-Mobility-Suite.aspx>

Microsoft FastTrack | Enterprise Mobility + Security

➔ <https://fasttrack.microsoft.com/ja-JP/ems>

Azure AD Premium、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium、Cloud App Security については、このドキュメントの以下の項も参照してください。

➔ [3.1 Azure AD Premium の評価を開始する > Azure Active Directory とは](#)

➔ [3.2 Microsoft Intune の評価を開始する > Microsoft Intune とは](#)

➔ [3.3 Azure Information Protection Premium の評価を開始する > Azure Information Protection とは](#)

➔ [3.4 Cloud App Security の評価を開始する > Cloud App Security とは](#)



Microsoft Advanced Threat Analytics の評価

Azure AD Premium が提供するセキュリティ検知および警告機能は、Azure AD Premium および Enterprise Mobility + Security の一部である Microsoft Advanced Threat Analytics (ATA) として、オンプレミスの Windows Server の Active Directory ドメイン環境に導入することが可能です。

Microsoft Advanced Threat Analytics の評価には、以下の 90 日評価版を使用できます。この評価版を利用するために、Azure AD Premium や Enterprise Mobility + Security のサブスクリプションや試用版へのサインアップは必要ありません。

Microsoft Advanced Threat Analytics 評価版ソフトウェア (90 日)

➔ <https://www.microsoft.com/ja-jp/evalcenter/evaluate-microsoft-advanced-threat-analytics>



3. 各サービスの試用版で個別に評価する

3.1 Azure AD Premium の評価を開始する

Azure Active Directory とは

Microsoft Azure Active Directory (以下、Azure AD) は、マイクロソフトが提供するクラウド ベースの ID 管理サービスです。Azure AD は、Microsoft Azure、Microsoft Intune、Office 365 など、マイクロソフトのクラウド サービスに共通の ID 管理と認証基盤を提供します。Azure AD は、サード ベンダーの SaaS 型サービスとの ID 統合、オンプレミスの Windows Server の Active Directory ドメイン サービス (以下、AD DS) で構築された Active Directory ドメインとの ID 統合をサポートし、シングル サインオン (SSO) アクセスや多要素認証、ID の保護のためのセキュリティ機能を提供します。

Azure AD には、Free (無料)、Basic、Premium P1、および Premium P2 の 4 つのエディションが用意されています。Microsoft Azure、Microsoft Intune、および Office 365 には、Free エディションが付属しています。Basic、Premium P1、および Premium P2 エディションは Microsoft エンタープライズ契約 (EA) を通じて導入することができますが、Free エディションに Premium P1 または Premium P2 エディションのサブスクリプションをオンラインで追加購入することも可能です。

Azure AD の各エディションの機能の違いと料金、および購入方法については、以下のサイトで確認できます。

Azure Active Directory の価格

➔ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/details/active-directory/>

Azure AD のすべての機能を利用できるのは、Azure AD Premium (P1 または P2) です。セルフ サービスのパスワード リセット、パスワードの書き戻し、およびデバイス書き戻しを含むオンプレミスとの Active Directory とのディレクトリ同期、数千もの SaaS アプリへのグループ ベースのシングル サインオン、SaaS アプリの検出、詳細なセキュリティおよび使用のレポート、クラウドおよびオンプレミス アプリケーションへの多要素認証のサポートは、Azure AD Premium (P1 または P2) でのみ利用できます。ID 保護サービスである Azure AD Identity Protection (IP)、および特権アクセス管理サービスである Azure AD Privileged Access Management (PAM) は、Azure AD Premium P2 でのみ利用可能です。



Azure AD と Windows 10

Azure AD は、Windows 10 の新しいセキュリティ機能をサポートします。Azure AD のすべてのプランで、Azure AD 参加 (Azure AD Join)、Windows Hello for Business (旧称、Microsoft Passport for Work)、オンライン アプリの SSO アクセス、管理者による BitLocker 回復機能を利用できます。

Azure AD Premium (P1 および P2) では、オンプレミスのドメイン環境での Windows Hello for Business と Azure MFA の展開、社内アプリへの AD FS 認証と SSO アクセス、モバイル デバイス管理 (MDM) の自動登録、セルフサービスによる BitLocker 回復機能などを利用できます。

ここでは、Microsoft Azure 無料評価版にサインアップし、Azure AD Premium 評価版を追加する手順を説明します。

なお、「[2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する](#)」の手順で、Enterprise Mobility + Security E5 試用版および Microsoft Azure 無料試用版にサインアップ済みの場合は、この手順は不要です。Enterprise Mobility + Security E5 には、Azure AD Premium P2 が含まれており、単体の試用版よりも長く 90 日間評価できます。

Microsoft Azure 無料試用版に組織アカウントでサインアップする

組織用の Microsoft Azure AD のドメインを取得するために、Microsoft Azure 無料試用版にサインアップします。以前は、Microsoft Azure へのサインアップには個人の Microsoft アカウントが必要でした。Microsoft Intune や Office 365 の組織アカウントの ID 管理を共通化できるように、組織としてサインアップできるようになりました。



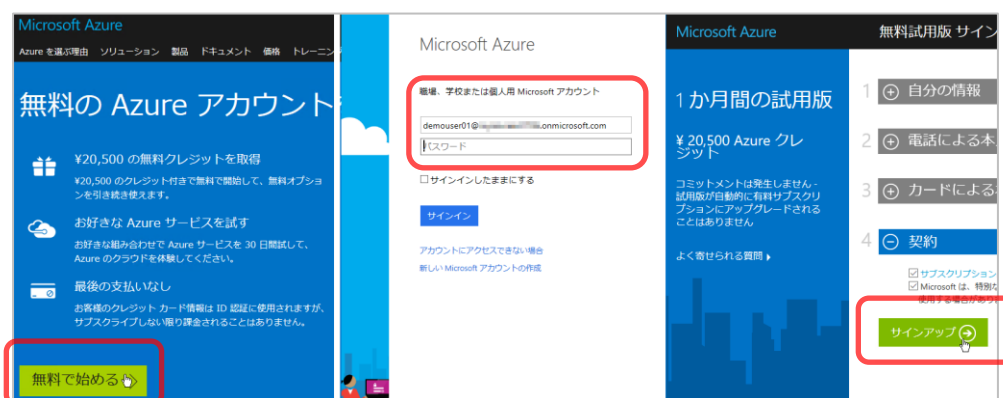
Microsoft Intune または Office 365 のサブスクリプションをお持ちの場合

Microsoft Intune または Office 365 のサブスクリプション（無料評価版を含む）を既にお持ちの場合は、Microsoft Azure の 1 か月無料試用版のページからサインアップを開始してください。

1 か月間の無料試用版

➡ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/free-trial/>

サインイン ページでは、Microsoft アカウントではサインインせず、Microsoft Intune または Office 365 サブスクリプションのテナント管理者の組織アカウントの資格情報を使用してサインインし、Microsoft Azure 無料試用版をサインアップします。



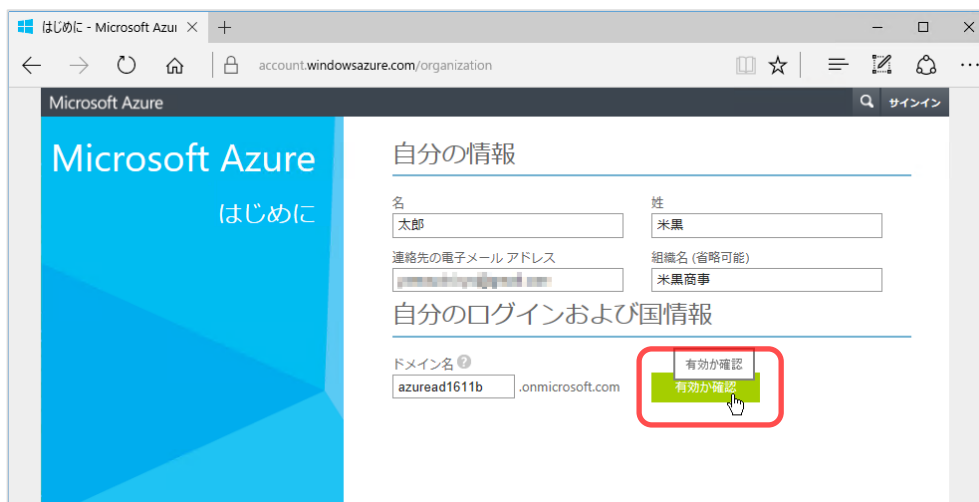
現在、Microsoft Azure、Office 365、Microsoft Intune のいずれのサブスクリプションも持っていない場合は、次の手順に従って、新規に Microsoft Azure に組織としてサインアップします。

1. Internet Explorer (以下、IE) または Windows 10 の Microsoft Edge で以下の URL を開きます。

Microsoft Azure への組織としてのサインアップ

➡ <https://account.windowsazure.com/organization>

2. 以下のページが表示されるので、名、姓、連絡先の電子メール アドレス、会社名（省略可）の情報を入力し、組織用のドメイン名を決定します。**ドメイン名.onmicrosoft.com** のドメイン名は無料で取得することができ、Azure AD に組織用ドメインのディレクトリが準備されます。ドメイン名を入力したら [有効か確認] をクリックして、入力したドメイン名が未使用で利用可能であることを確認します。



3. ドメイン名が有効であることを確認できたら、[自分のログインおよび国情報] の入力欄が表示されます。[国/リージョン] として [日本] を選択し、管理者用の組織アカウントのユーザー ID とパスワードを設定します。また、[携帯電話の番号および確認] に電話番号を入力し、テキスト メッセージまたは音声で確認コードを受け取ります。



4. 受信したコードを入力し、[コードの確認] をクリックして検証されると、[続行 →] ボタンがアクティブになります。[続行 →] ボタンをクリックすると、組織のドメイン（**ドメイン名.onmicrosoft.com**）用のディレクトリと組織アカウントが Azure AD に準備されます。



作成される組織アカウントについて

組織アカウントのユーザー ID (ユーザー ID@ドメイン名.onmicrosoft.com) は、このあとサインアップする Microsoft Azure のサービス管理者の組織アカウントになります。

このアカウントの資格情報が漏洩すると、テナントの管理権限が奪われてしまうため重大です。そのため、「[付録 多要素認証 \(MFA\) で組織アカウントの保護を強化する](#)」で説明する方法で、多要素認証を有効化し、アカウントの保護を強化することを強くお勧めします。

5. 組織アカウントの準備が完了すると、Microsoft Azure のサインイン ページが表示されるので、先ほど作成した組織アカウントの資格情報を入力し、サインインします。

6. 続いて、Microsoft Azure 無料試用版へのサインアップに進みます。サインアップに必要な情報を入力し、[サインアップ →] をクリックします。サインアップには、テキスト メッセージまたは音声によるコードの確認と、有効なクレジット カード情報の入力、契約への同意が必要です。

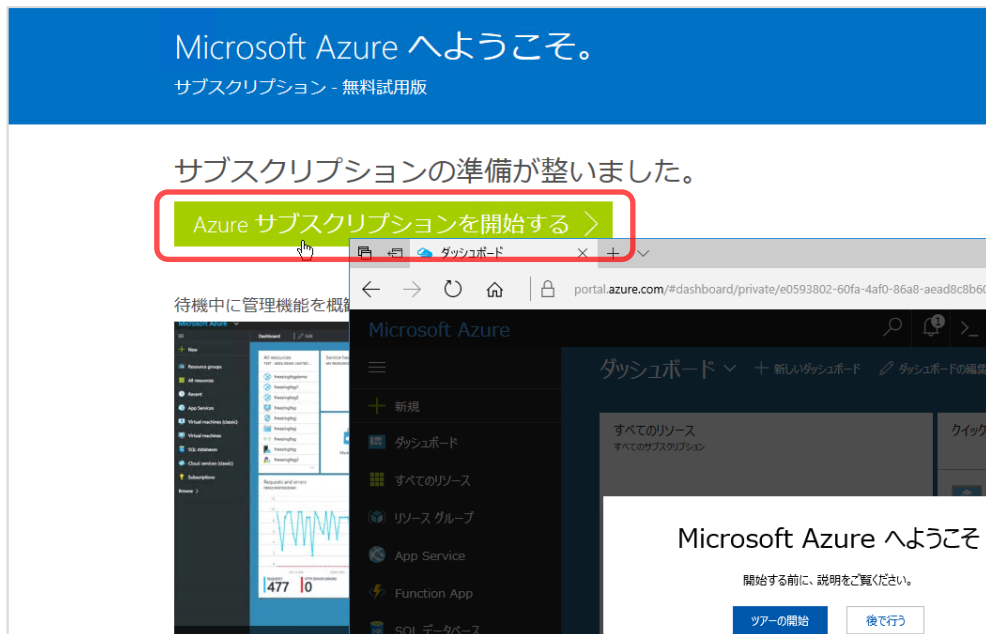


無料評価期間中の課金はありません

Microsoft Azure 無料試用版のサインアップのためにクレジットカード情報の入力必須ですが、これは本人確認のプロセスの 1 つであり、無料評価期間中に課金が発生することはありません。

- Microsoft Azure 無料試用版のサインアップが完了すると、Microsoft Azure 無料試用版へのサインアップ完了を確認する電子メール、および Azure AD に組織 ID 用のドメインが作成されたことを通知する電子メールが、サインアップ時に指定した連絡先メールアドレスに送信されます。

- [Microsoft Azure へようこそ] のページに [サブスクリプションの準備が整いました] と表示されたら、[サービスの管理を開始する] をクリックして、Azure ポータルにサインインします。

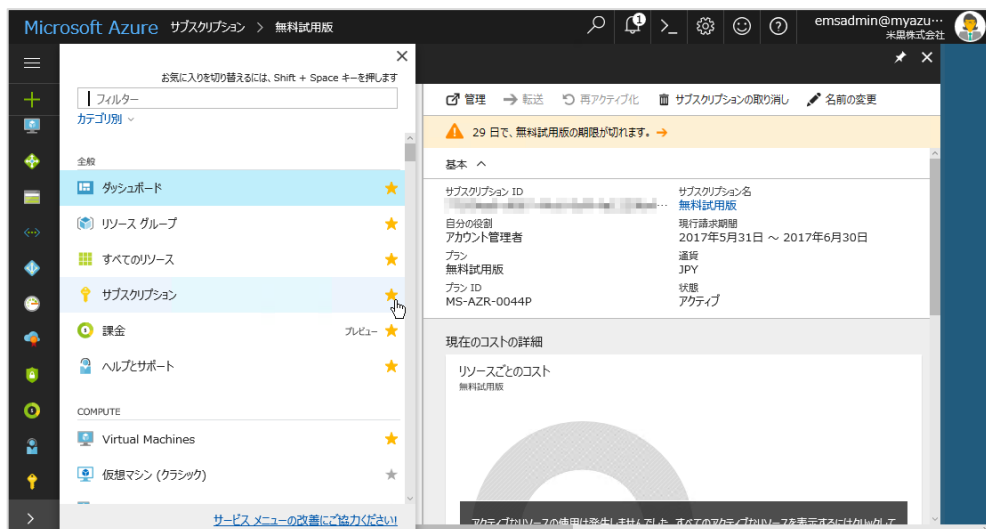


Web ブラウザーを閉じてしまった場合は、Azure ポータルの URL を開き、組織アカウントの資格情報でサインインしてください。

Azure ポータル

➡ <https://portal.azure.com/>

無料試用版の期間および無料試用版に含まれるサービス クレジットの使用状況については、Azure ポータルの [サブスクリプション] ブレードで確認できます。[サブスクリプション] のメニュー項目が無い場合は、メニューの [>] または [More services >] から、[サブスクリプション] を開くことができます。[サブスクリプション] の横にある★を選択すると、メニュー項目に [サブスクリプション] メニュー ブレードをピン留めすることができます。

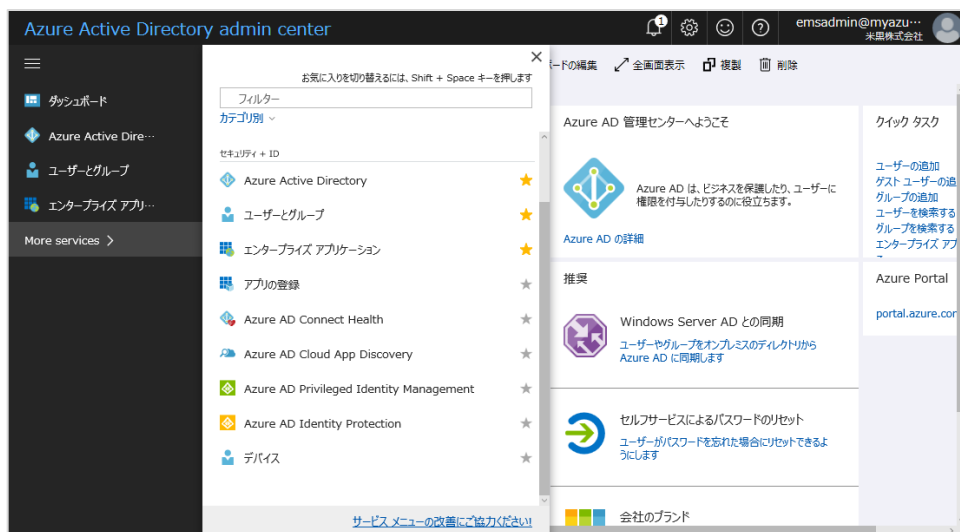


9. 2017 年 5 月より、Azure AD に関連するサービスの構成と管理に特化した Azure AD 管理センターが正式に利用可能になりました。Azure AD 管理センターにアクセスするには、Web ブラウザーで以下の URL を開きます。なお、Azure AD 管理センターで構成および管理できることは、Azure ポー

タルでも行えます。

Azure AD 管理センター

➡ <https://aad.portal.azure.com/>



Azure クラシック ポータルへのアクセス

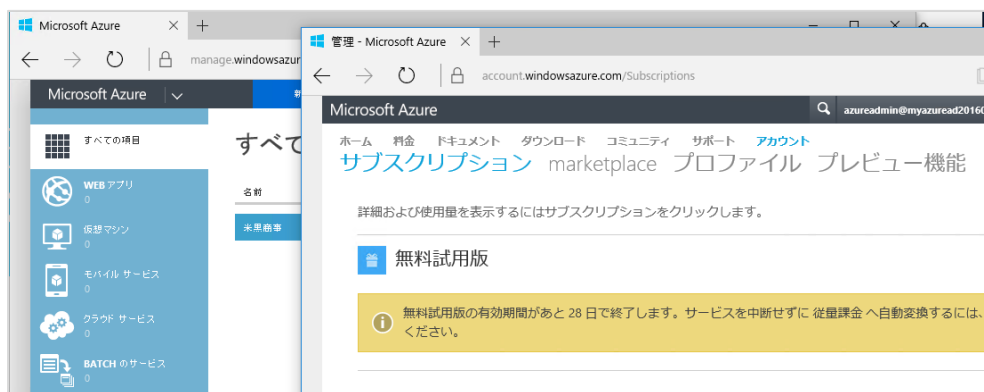
Microsoft Azure の新しい Azure ポータルは、2015 年 12 月に正式版になりました。従来のポータルであるクラシック ポータルおよびアカウント ポータルも引き続き利用可能です。

Azure クラシック ポータル

➡ <https://manage.windowsazure.com/>

Azure アカウント ポータル

➡ <https://account.windowsazure.com/>



Microsoft Azure の一部のサービスは、新しい Azure ポータルにはまだ対応していないものもあり、Azure クラシック ポータルで管理する必要があります。Azure クラシック ポータルを使用する必要がある機能については、Azure ポータルから自動的にリダイレクトされます。

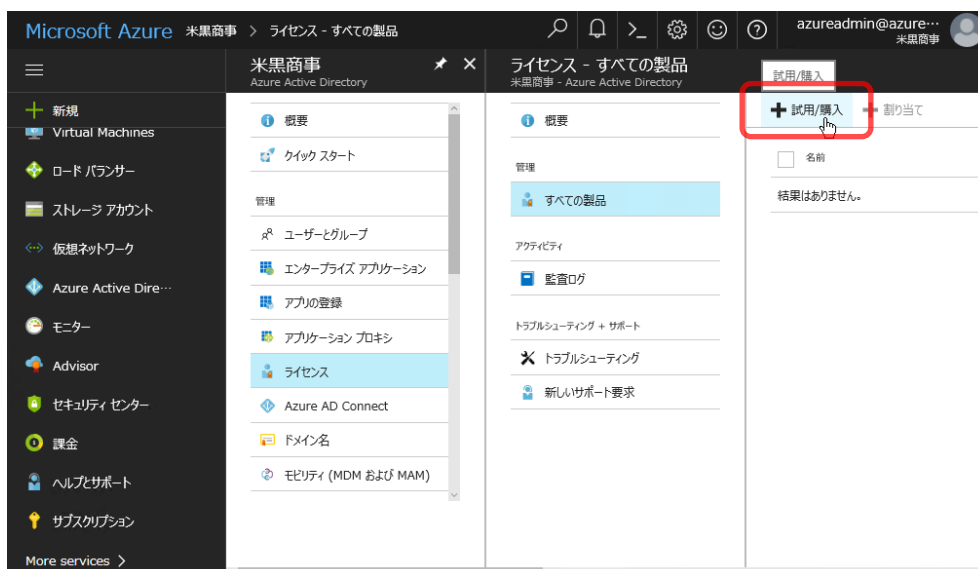
Azure AD Premium 試用版にサインアップする

いまサインアップした Microsoft Azure 無料評価版のサブスクリプションには、Azure AD の組織用ドメインのディレクトリ（ドメイン名.onmicrosoft.com）が関連付けられ、Azure ポータルを使用してドメインを管理できるようになります。

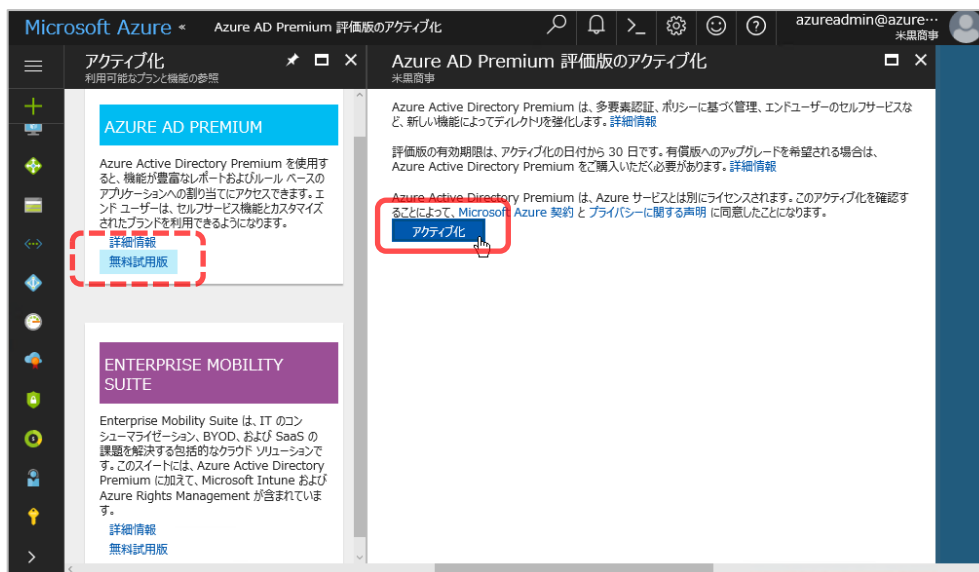
Microsoft Azure に付属するこの Azure AD は無料の Free エディションです。Azure AD Premium 試用版をアクティブ化することで、Azure AD Premium の評価を開始できます。Enterprise Mobility + Security 試用版の試用期間は **90 日**ですが、Azure AD Premium P1 および P2 試用版の試用期間は **30 日**です。

Azure AD Premium 試用版のアクティブ化は、Azure ポータル、Azure AD 管理センター、Office 365 管理センター、および Azure クラシック ポータルのいずれからでも行えますが、ここでは Azure ポータルを使用する方法で説明します。この方法では、Azure AD Premium P2 の試用版をアクティブ化できます。Azure AD 管理センターを使用する場合も、同じ手順で行えます。

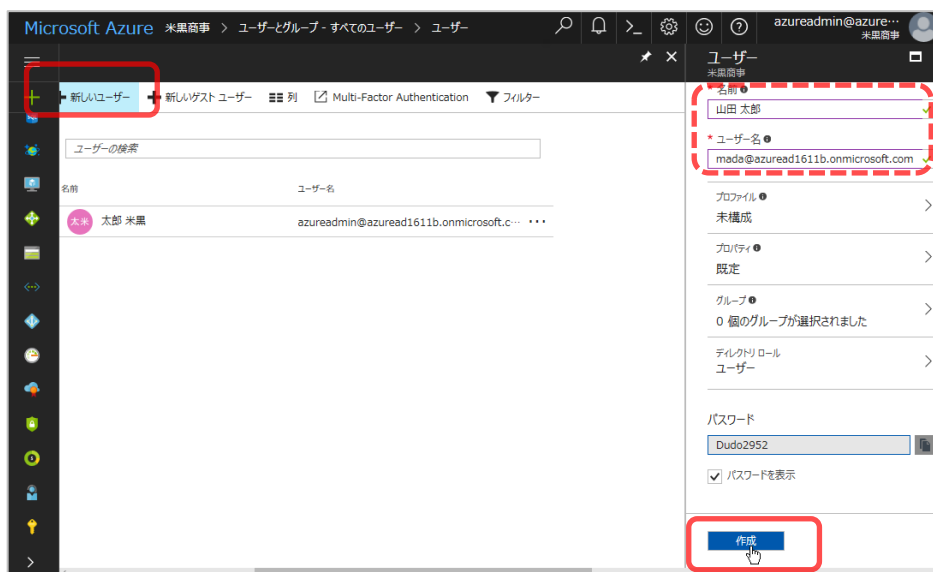
1. Azure ポータル (→ <https://portal.azure.com/>) に、Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。
2. メニューから [Azure Active Directory] ブレードを開き、ディレクトリの [ライセンス] [すべての製品] の順番に開いて、[+ 試用/購入] をクリックします。



3. [アクティブ化] のページが開きます。ここで、[AZURE AD PREMIUM] の [無料試用版] をクリックし、[Azure AD Premium 評価版のアクティブ化] ページで [アクティブ化] をクリックします。
[Azure AD Premium 評価版を正常にアクティブ化しました] と通知されることを確認します。アクティブ化されたライセンスをユーザーに割り当てることで、アクティブ化した日から **30 日間**、Azure AD Premium P2 の機能を利用できるようになります。



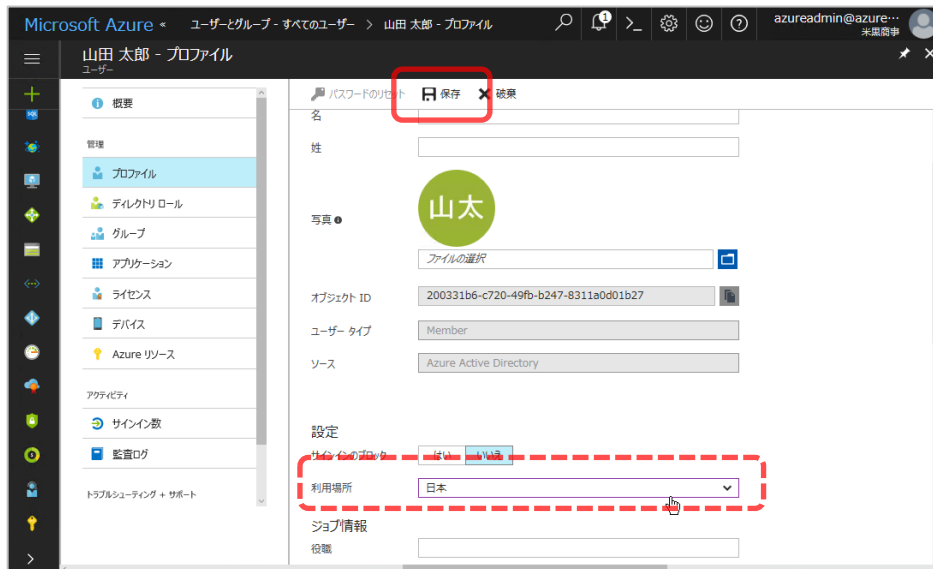
4. ユーザーにライセンスを割り当てるために、[Azure Active Directory] ブレードを開き、[すべてのユーザーとグループ] [すべてのユーザー] の順番に開いて、[+ 新しいユーザー] をクリックします。
5. [ユーザー] ブレードで [名前] にユーザーの表示名を、[ユーザー名] に **ユーザー ID@ドメイン名.onmicrosoft.com** の形式でユーザーの ID を指定します。[ディレクトリ ロール] として [ユーザー] を選択したら、自動生成されるパスワードを控え、[作成] ボタンをクリックします。



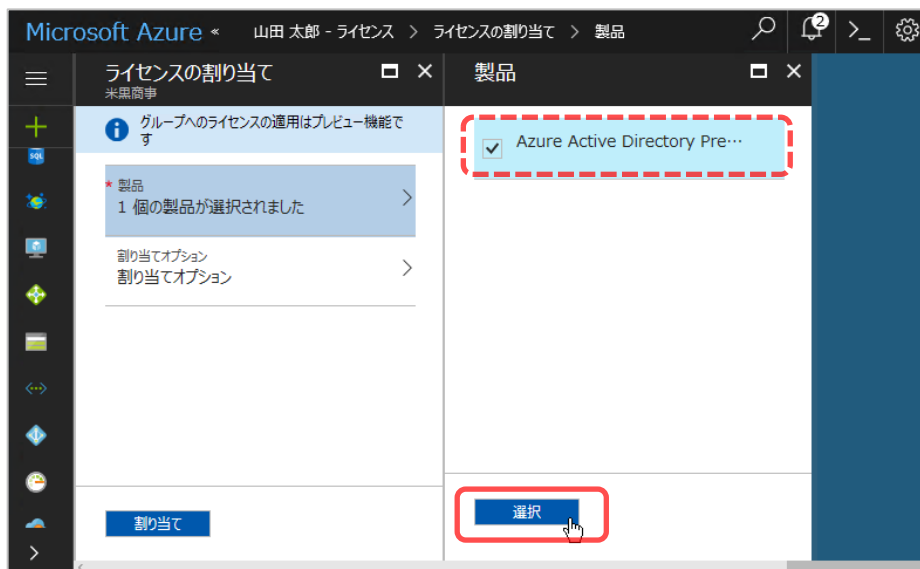
ユーザーは初回サインイン時にパスワードの変更が必要

ユーザーの作成時に自動生成されるパスワードは一時パスワードであり、Office 365 のユーザー ポータル (→ <https://portal.office.com/>) やアクセス パネル アプリケーション (MyApps) ポータル (→ <https://myapps.microsoft.com/>) などにその ID で初めてサインインする際に使用します。一時パスワードによる認証に成功すると、ユーザー自身によるパスワードの再設定が要求されます。

6. ユーザーが正常に作成されたことを確認したら、同様の手順で必要な数のユーザーを作成します。
7. 作成したすべてのユーザーについて、ユーザーの「プロフィール」を開き、「利用場所」を設定します。「利用場所」の指定は、ライセンスの割り当てのために必須です。また、多要素認証で「会社電話への通知」を可能にする場合は（「[付録 多要素認証 \(MFA\) で組織アカウントの保護を強化する](#)」を参照）、「会社電話」に電話番号（日本国内の場合は +81 から始まる番号）を設定しておく必要があります。その他の項目は必要に応じて構成してください。例えば、既定ではユーザーの姓名から生成されたイメージがユーザーに設定されますが、写真をアップロードすることでイメージを変更できます。プロフィールの編集が完了したら、「保存」をクリックします。

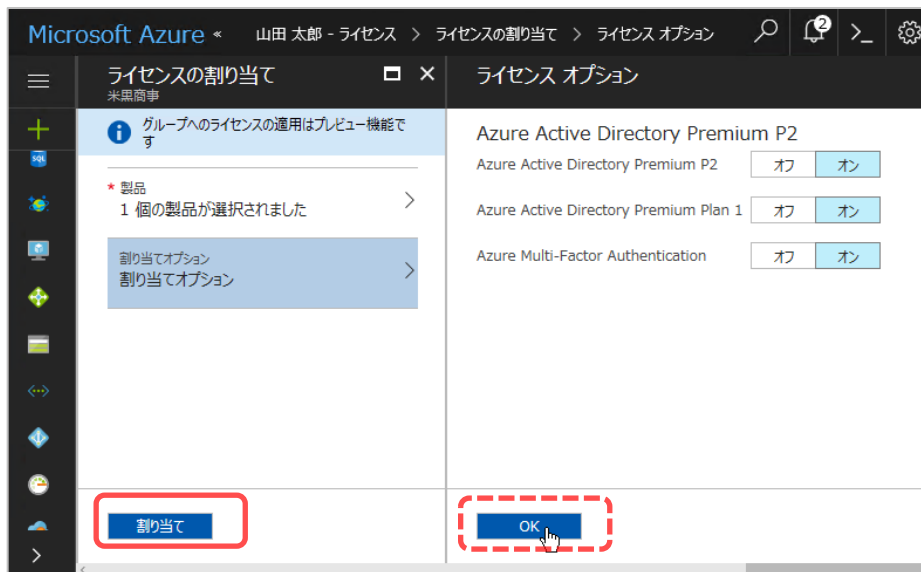


8. 作成したすべてのユーザーについて、ユーザーの「ライセンス」を開き、「ライセンスの割り当て」の「製品」から「Azure Active Directory Premium P2」ライセンスを選択します。



9. Azure Active Directory Premium P2 に含まれる機能ごとのライセンス割り当てを必要に応じてカスタマイズします。Azure AD Premium P1、Azure AD Premium P2、および Azure Multi-Factor

Authentication のライセンスから必要なものを個別に割り当てることができます。通常は、すべての項目を [オン] の状態をオンのまま [OK] ボタンをクリックし、[ライセンスの割り当て] にある [割り当て] ボタンをクリックします。



10. ライセンスを割り当てたユーザーの [ライセンス] を開き、Azure Active Directory P2 ライセンスが割り当てられたことを確認します。なお、ディレクトリの [ライセンス] から割り当て操作を行うと、複数のユーザーに一括でライセンスを割り当てることができます。



Office 365 管理センターからの Azure AD Premium 試用版のアクティブ化

Office 365 管理センター (→ <https://portal.azure.com/>) を使用して、Azure AD Premium の試用版をアクティブ化するには、[課金情報] の [サービスを購入する] から、[Azure Active Directory Premium P1] または [Azure Active Directory Premium P2] の [...] をクリックし、[無料試用の開始] をクリックして、[購入手続きへ進む | 注文の確定] ページで [無料トライアル] をクリックします。Azure ポータルでは Azure AD Premium P2 試用版のアクティブ化が可能ですが、Office 365 管理センターでは、Azure AD Premium P1 または P2 試用版のアクティブ化が可能です。



次のステップ

Azure AD Premium 試用版をアクティブ化することで、Azure AD Premium の機能を **30 日間**評価することができます。Enterprise Mobility + Security E5 試用版の場合は、さらに長い **90 日間**評価することができます。

なお、Microsoft Azure サブスクリプションの 30 日間の使用期限が過ぎ、Microsoft Azure サブスクリプションが無効化された場合でも、Azure ポータルの [Azure Active Directory] ブレードや Azure AD 管理センターによる Azure AD の管理操作は引き続き可能です。

Azure AD の機能の評価手順については、以下の自習書およびドキュメントを参照してください。

Azure 自習書シリーズ Azure Active Directory による認証環境の構築 (PDF、11.1 MB)

➡ http://download.microsoft.com/download/C/E/0/CE041DB1-BE60-4419-85E2-A19018E29DC8/AzureAD_Authentication_Eval_Guide_Jp.pdf

オンプレミスの ID と Active Directory の統合 | Microsoft Docs

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/active-directory-aadconnect>

3.2 Microsoft Intune の評価を開始する

Microsoft Intune とは

Microsoft Intune は、マイクロソフトがクラウド ベースで提供する PC およびモバイル デバイスの管理ツールです。PC およびモバイル デバイスの資産管理、モバイル デバイス管理 (MDM)、ポリシー管理、ソフトウェア管理、更新プログラム管理、および PC のマルウェア対策 (Microsoft Intune Endpoint Protection) の機能を提供します。

Microsoft Intune はサービス単体でも利用できますが、System Center Configuration Manager と統合することで、オンプレミスのシステム管理基盤にモバイル デバイス管理機能 (MDM) を追加し、管理を統合することができます。また、Microsoft Intune は ID 管理のために Azure AD を使用しているため、Office 365 や Microsoft Azure の ID 統合、およびオンプレミスの Windows Server AD DS との ID 統合が可能です。

ここでは、既に取得済みの組織アカウントを使用して Microsoft Intune **30 日間無料試用版**にサインアップし、共通の Azure AD ディレクトリに Microsoft Intune の管理環境を統合する手順について説明します。取得済みの組織アカウントが無い場合は、[「3.1 Azure AD Premium の評価を開始する > Microsoft Azure 無料試用版に組織アカウントでサインアップする」](#)の手順で取得できます。

なお、[「2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する」](#)の手順で、Enterprise Mobility + Security E5 試用版および Microsoft Azure 無料試用版にサインアップ済みの場合は、この手順は不要です。Enterprise Mobility + Security E5 には、Microsoft Intune が含まれており、単体の試用版よりも長く、**90 日間**評価できます。

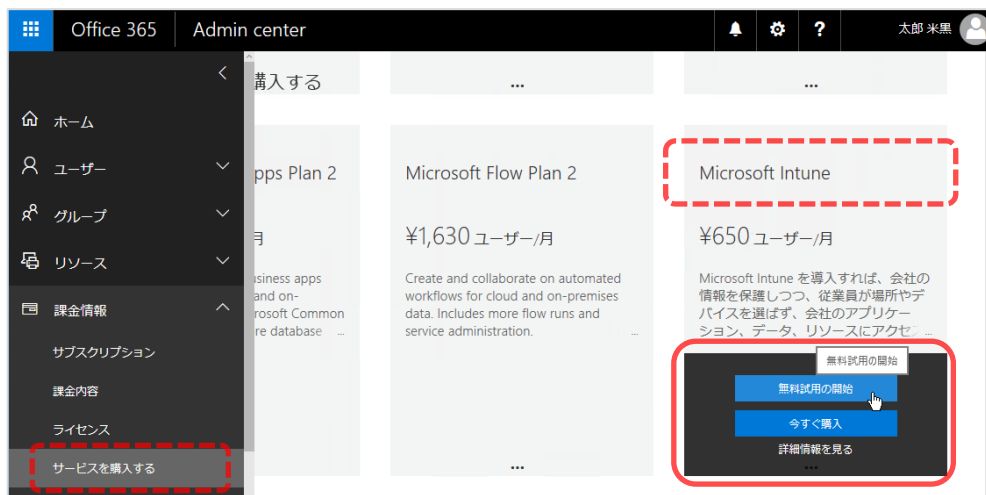
Microsoft Intune 無料試用版にサインアップする

組織用の Azure AD のディレクトリが既にある場合は、次の手順で Microsoft Intune 30 日間無料試用版にサインアップすることで、共通のディレクトリを用いて Microsoft Intune の管理環境を準備できます。

1. Office 365 ポータル (→ <https://portal.office.com/>) に、既に利用中のサービスのテナント管理者または Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。なお、Office 365 ポータルは、Office 365 サブスクリプションをお持ちでない場合でもユーザーやライセンスの管理のために利用できます。
2. Office 365 管理センターではなく、ユーザー ポータルが表示された場合は、Office 365 ポータルで [管理者] タイルをクリックし、Office 365 管理センター (Admin center) を開きます。



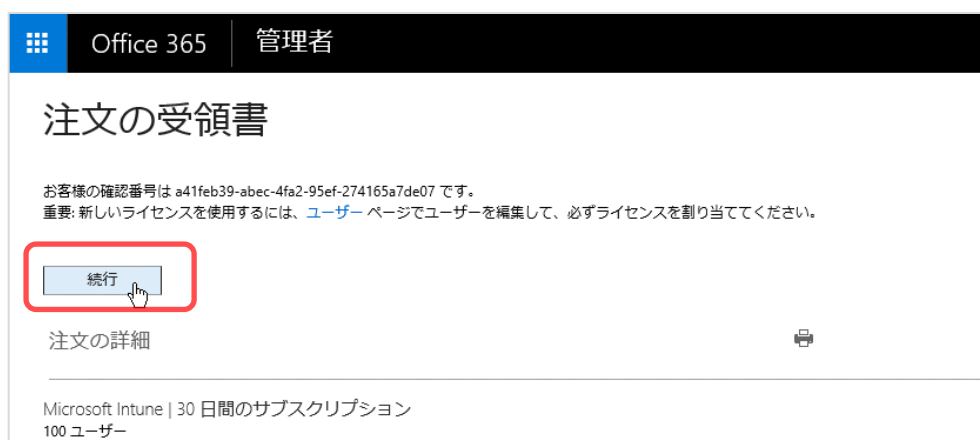
3. 「課金情報」の「サービスを購入する」を展開し、「ホーム > サービスを購入する」の一覧から「Microsoft Intune」を探します。「Microsoft Intune」の「…」をクリックし、「無料試用の開始」をクリックします。



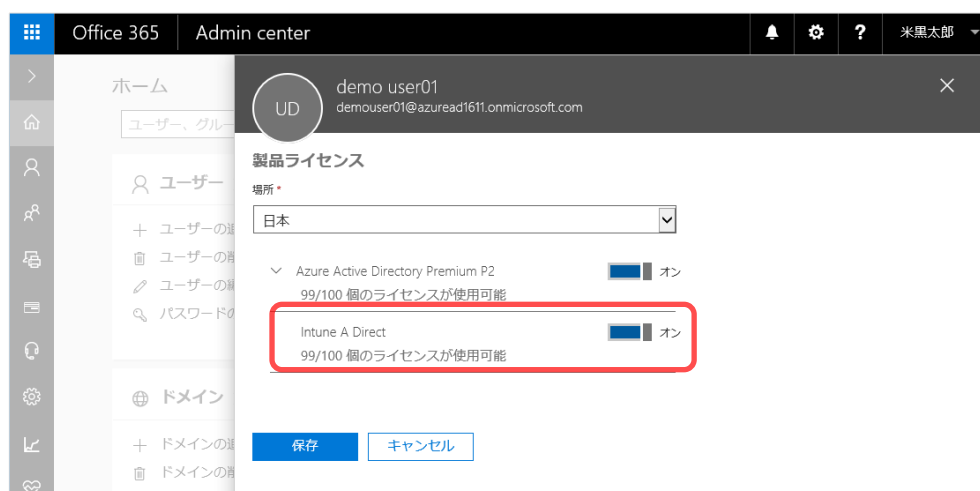
4. 「購入手続きへ進む」の「注文の確定」ページが開くので、目的のサブスクリプションの試用版が選択されていることを確認し、「無料トライアル」をクリックします。



5. [注文の受領書] ページが表示されます。この時点で Microsoft Intune 試用版が利用可能になったことを通知する電子メールが、テナント管理者の連絡先メールアドレスに送信されます。[続行] をクリックして購入手続きを終了します。



6. Office 365 管理センターに戻るので、[ホーム] の [+ ユーザーの追加] をクリックし、Azure AD のディレクトリに評価用ユーザーを作成して、**Intune A Direct** のライセンスを割り当てます。既に作成済みのユーザーがある場合は、[ユーザーの編集] を使用して、製品ライセンスとして **Intune A Direct** のライセンスを割り当ててください。



なお、ユーザーの作成とライセンスの割り当ては、Azure ポータルから行うことも可能です。



Microsoft Intune のみを評価する

Microsoft Intune の機能のみを評価したい場合は、以下の URL から Microsoft Intune 30 日間無料評価版へのサインアップを開始してください。以下の URL からのサインアップでは、組織アカウントの新規作成から開始できます。

Microsoft Intune | クラウド プラットフォーム

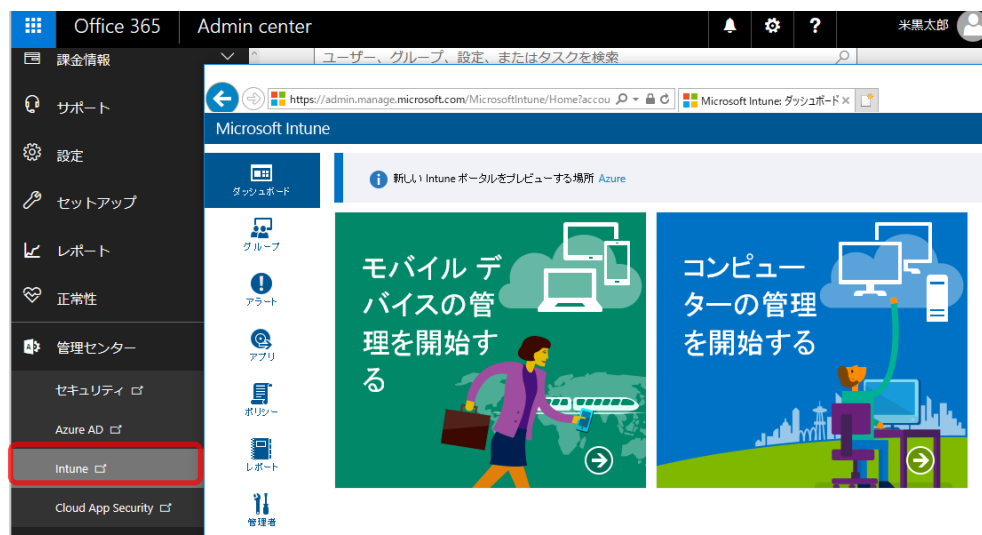


<https://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/products-Microsoft-Intune-Evaluate.aspx>



Microsoft Intune 管理コンソール (クラシック ポータル) の使用

PC とデバイスの管理を行うには、Internet Explorer で Office 365 管理センターにサインインし、[管理センター > Intune] をクリックして、Microsoft Intune 管理コンソールを開きます。または、Internet Explorer で Microsoft Intune 管理コンソール (クラシック ポータル) の URL (→ <https://manage.microsoft.com/>) を直接開きます。Microsoft Edge の使用はサポートされませんが、Microsoft Edge からアクセスした場合は、自動的に Internet Explorer にリダイレクトされます。



Microsoft Intune 管理コンソール (クラシック ポータル) でサポートされているブラウザ

Microsoft Intune 管理コンソールには、Windows コンピューターの Internet Explorer 10 以降、Google Chrome バージョン 42 より前、または Mozilla Firefox バージョン 52 より前を使用して

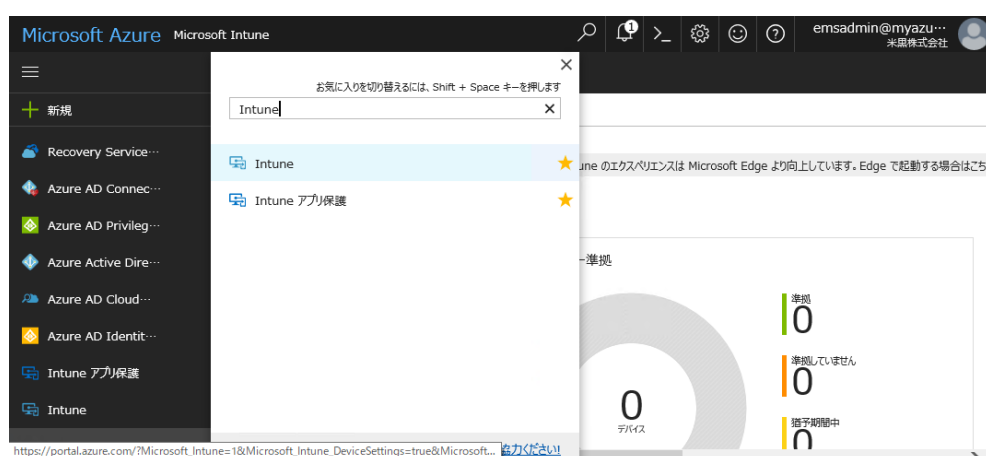
ください。コンソールの表示には、Microsoft Silverlight が必要です。Windows 10 の Microsoft Edge の使用はサポートされません。また、最新の Google Chrome および Mozilla Firefox では、Microsoft Silverlight がサポートされなくなりました。詳しくは、以下のドキュメントで確認してください。

Microsoft Intune でサポートされている Web ブラウザー

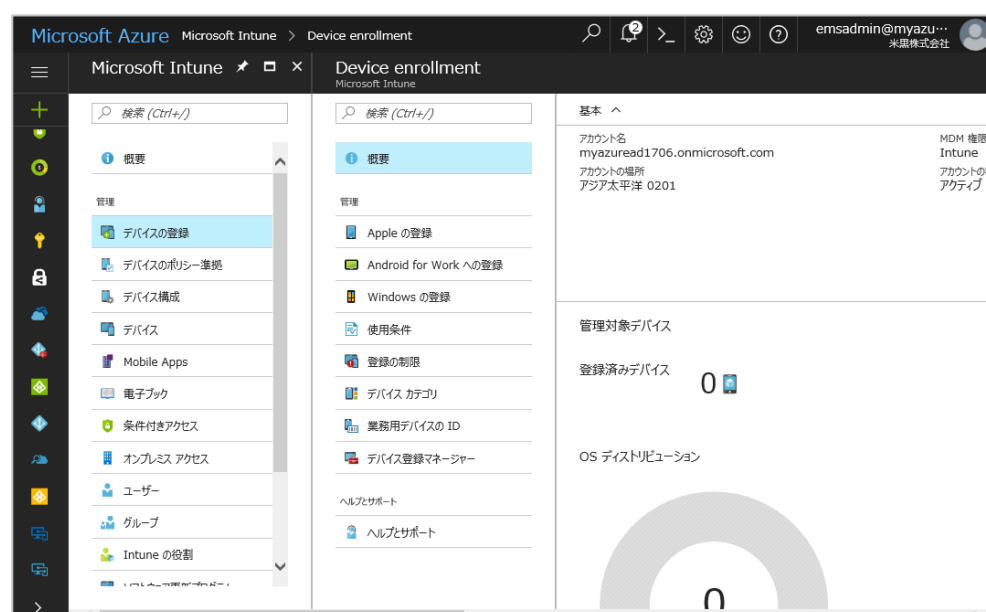
➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/intune/get-started/supported-web-browsers>

新しい Microsoft Intune ポータル

2017 年 6 月 8 日に、Azure ポータルに統合された、ブラウザー非依存の新しいポータルが正式版となりました。Microsoft Intune の新しいポータルは、Azure ポータルの [More services >] の [監視+管理] カテゴリにある [Intune] および [Intune アプリ保護] から開くことができます。

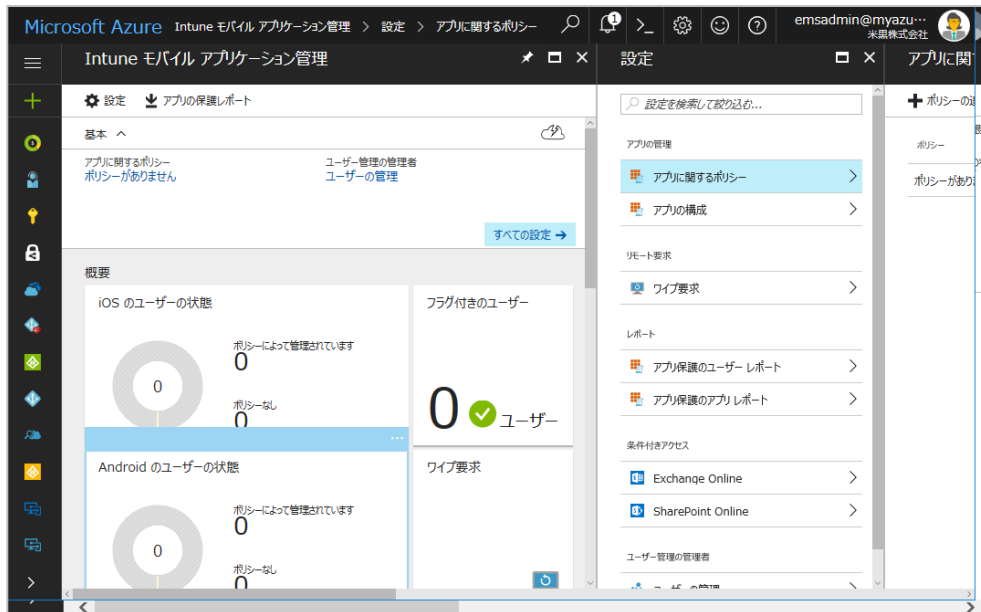


[Intune] をクリックすると [Microsoft Intune] ブレードが開き、Microsoft Intune の全体の構成と管理を行えます。



[Intune アプリ保護] をクリックすると [Intune モバイル アプリケーション管理] ブレードが開き、MDM

管理に特化した管理操作を行えます。例えば、Windows 10 バージョン 1607 以降の Windows Information Protection (WIP) は、[Intune モバイル アプリケーション管理] ブレードで MDM ポリシー（登録済みデバイス）または MAM ポリシー（デバイス登録なし）を作成して構成することができます。



次のステップ

以上の手順で Microsoft Intune の管理環境を導入できました。このあとは、ユーザーを作成し、PC にエージェントを展開して Microsoft Intune の管理対象にします。また、モバイル デバイスに専用のアプリをインストールして Microsoft Intune にデバイスを登録します。

Microsoft Intune による PC とモバイル デバイスの管理機能および操作手順については、以下の評価ガイドやドキュメントを参照してください。評価ガイドは、Microsoft Intune 管理コンソール（クラシックポータル）を使用した手順であることに注意してください。

Microsoft Intune 評価ガイド（PDF、13.0 MB）

➡ http://download.microsoft.com/download/C/E/0/CE041DB1-BE60-4419-85E2-A19018E29DC8/Microsoft_Intune_Eval_Guide_jp.pdf

Microsoft Intune のドキュメント | Microsoft Docs

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/intune-classic/>

3.3 Azure Information Protection Premium の評価を開始する

Azure Information Protection とは

Azure Information Protection は、Windows Server の Active Directory Rights Management サービス (AD RMS) の高度なコンテンツ保護機能を、クラウド ベースで提供するデータ保護ソリューションです。以前は Azure Rights Management (Azure RMS) と呼ばれていましたが、2016 年 10 月より Azure Information Protection に移行し、分類ラベルによる保護機能が追加されました。今後、Azure Rights Management および Azure RMS という名称は、Azure Information Protection が使用する保護テクノロジーという意味で引き続き使用されます。

Azure Information Protection を使用すると、Office ドキュメントや PDF ドキュメント、テキスト、画像、電子メール メッセージを暗号化して保護し、特定のユーザーやグループに対してコンテンツの表示、保存、編集、印刷、転送などの権限を細かく設定できます。また、コンテンツに有効期限を設定し、期限切れのコンテンツへのアクセスを停止することもできます。さらに、ドキュメント トラッキング (使用の追跡) ポータルを使用したドキュメントへのアクセス状況をリアルタイムの追跡やブロック、分類ラベルのクリック操作による保護や、内容に基づいた自動分類および保護機能を利用できます。

Information Rights Management (IRM) 対応の Office アプリケーションは、保護設定や保護されたコンテンツへのアクセスに標準で対応しています。Android や iOS といったモバイル デバイスや Mac についても、Azure Information Protection アプリを使用することで、保護されたコンテンツへのアクセスが可能です。また、Azure Information Protection はクラウド ベースなので、社外のユーザーとの安全な情報共有環境を、容易に実現できるというメリットもあります。

Azure Information Protection を使用するには、次のいずれかのサブスクリプションが必要です。

- **Office 365 Enterprise E3 または E5 プランのサブスクリプション**
※使用状況の追跡 (ドキュメント トラッキング)、RMS コネクターによるオンプレミスとの連携、分類ラベル、自動分類機能は含まれません。
- **Azure Information Protection Premium P1 (旧称、Azure RMS Premium) または Azure Information Protection Premium P2 サブスクリプション**
※ 自動分類機能は、Azure Information Protection Premium P2 で利用可能です。
- **Enterprise Mobility + Security E3 (旧称、Enterprise Mobility Suite) または Enterprise Mobility + Security E5 サブスクリプション**
- **個人用 RMS サブスクリプション (無料)**
※保護されたドキュメントやメールの参照のみが可能です。

ここでは、既に取得済みの組織アカウントの Azure AD ディレクトリに、Azure Information Protection Premium P1 または P2 サブスクリプションの **30 日間試用版**を追加して評価する手順について説明します。

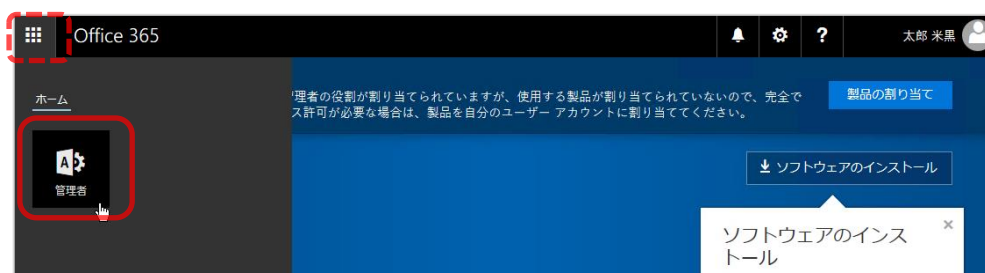
なお、「[2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する](#)」の手順で、Enterprise Mobility + Security

E5 試用版および Microsoft Azure 無料試用版にサインアップ済みの場合は、試用版へのサインアップの手順は不要です。「[Azure AD で Rights Management をアクティブ化する](#)」に進んでください。Enterprise Mobility + Security E5 試用版には Azure Information Protection P2 が含まれており、個別の試用版よりも長く、**90 日間**評価できます。

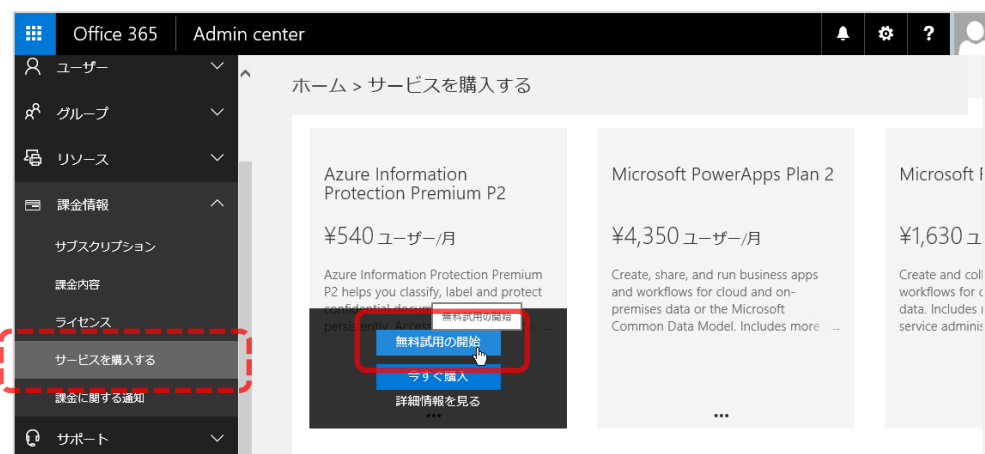
Azure Information Protection Premium 試用版にサインアップする

組織用の Azure AD のディレクトリが既にある場合は、次の手順で Azure Information Protection Premium P1 または P2 試用版にサインアップすることで、共通のディレクトリを用いて Azure Information Protection を評価できます。自動分類機能を含めて評価するには、Azure Information Protection Premium P2 試用版にサインアップしてください。

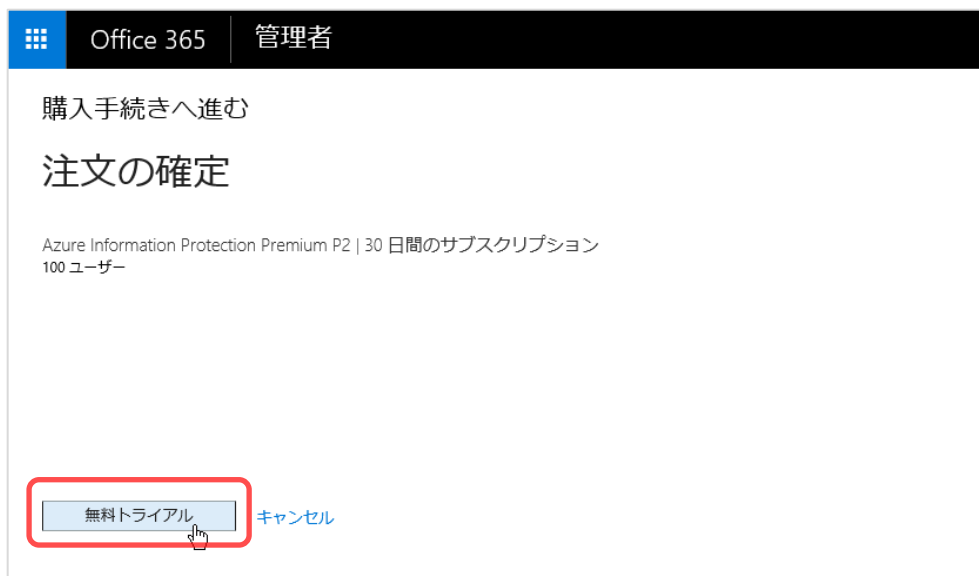
1. Office 365 ポータル (→ <https://portal.office.com/>) に、既に利用中のサービスのテナント管理者または Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。なお、Office 365 ポータルは、Office 365 サブスクリプションをお持ちでない場合でもユーザーやライセンスの管理のために利用できます。
2. Office 365 管理センターではなく、ユーザー ポータルが表示された場合は、Office 365 ポータルで [管理者] タイルをクリックし、Office 365 管理センター (Admin center) を開きます。



3. [課金情報] の [サービスを購入する] を展開し、[ホーム > サービスを購入する] の一覧から [Azure Information Protection プラン 1] (Azure Information Protection Premium P1 はこちら) または [Azure Information Protection Premium P2] を探します。いずれかのサービスの [...] をクリックし、[無料試用の開始] をクリックします。



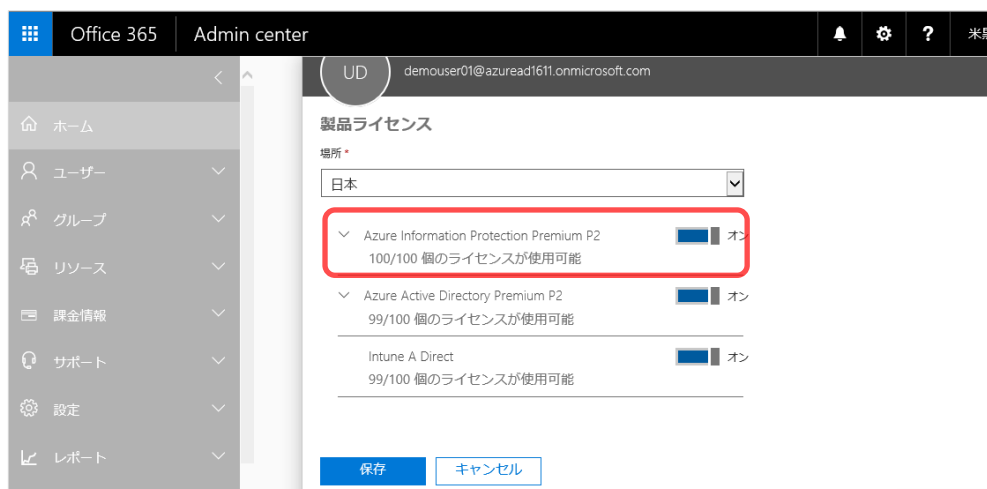
4. [購入手続きへ進む] の [注文の確定] ページが開くので、目的のサブスクリプションの試用版が選択されていることを確認し、[無料トライアル] をクリックします。



5. [注文の受領書] ページが表示されます。この時点で Azure Information Protection Premium 試用版が利用可能になったことを通知する電子メールが、テナント管理者の連絡先メール アドレスに送信されます。[続行] をクリックして購入手続きを終了します。



6. Office 365 管理センターに戻るので、[ホーム] の [+ ユーザーの追加] をクリックし、Azure AD のディレクトリに評価用ユーザーを作成して、**Azure Information Protection Premium** のライセンスを割り当てます。既に作成済みのユーザーがある場合は、[ユーザーの編集] を使用して、製品ライセンスとして **Azure Information Protection Premium** のライセンスを割り当ててください。

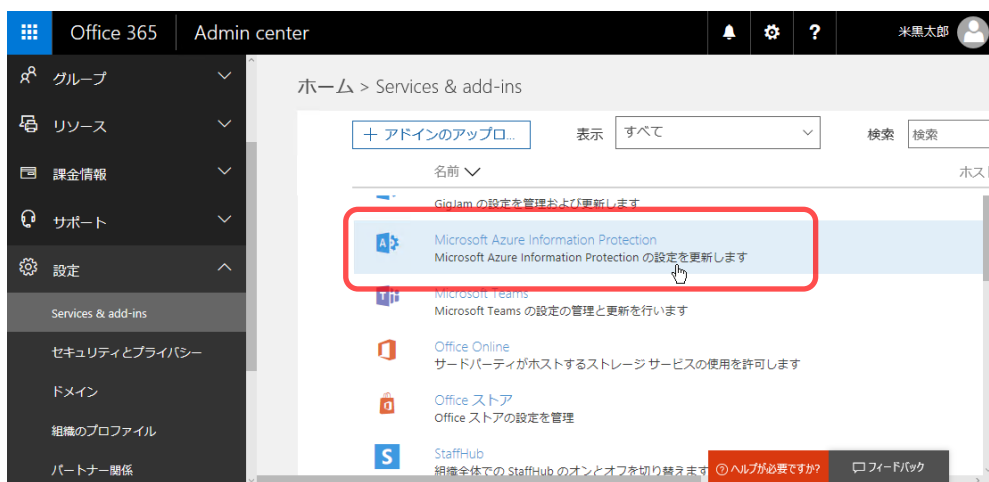


なお、ユーザーの作成とライセンスの割り当ては、Azure ポータルから行うことも可能です。

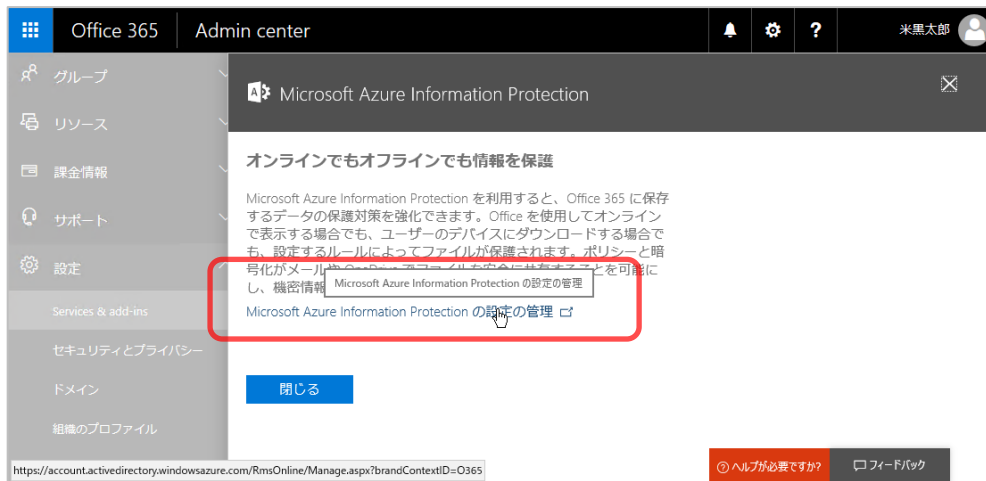
Azure AD で Rights Management をアクティブ化する

Azure Information Protection Premium P1 または P2 試用版のサインアップが完了したら、次の手順で Azure AD のディレクトリで Rights Management の機能をアクティブ化します。

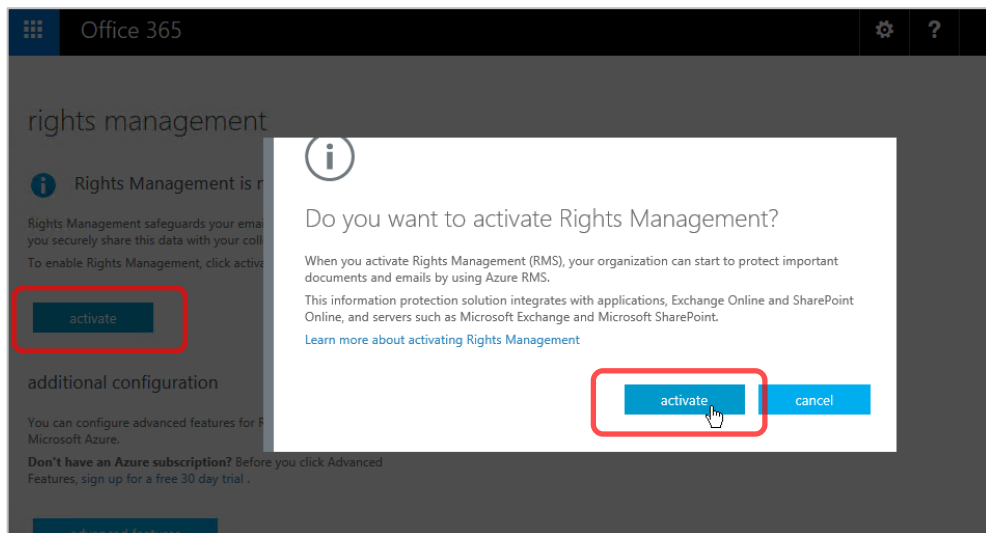
1. Office 365 ポータル (→ <https://portal.office.com/>) に、既に利用中のサービスのテナント管理者または Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。なお、Office 365 ポータルは、Office 365 サブスクリプションをお持ちでない場合でもユーザーやライセンスの管理のために利用できます。
2. Office 365 管理センターではなく、ユーザー ポータルが表示された場合は、Office 365 ポータルで [管理者] タイルをクリックし、Office 365 管理センター (Admin center) を開きます。
3. [設定] の [Services & add-ins] を展開し、[Microsoft Azure Information Protection] をクリックします。



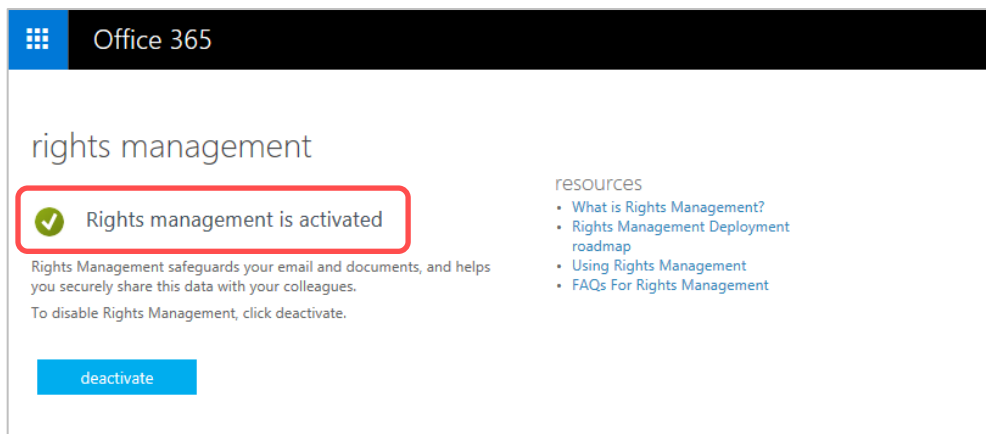
4. [Microsoft Azure Information Protection] のページで [Microsoft Azure Information Protection の設定の管理] をクリックします。



5. Web ブラウザーの新しいタブに [rights management] のページが表示されるので、[activate] をクリックします。確認メッセージが表示されるので、メッセージを確認し、[activate] をクリックします。



6. [rights management] ページに [Rights management is activated] と表示されていることを確認し、このページのタブを閉じます。

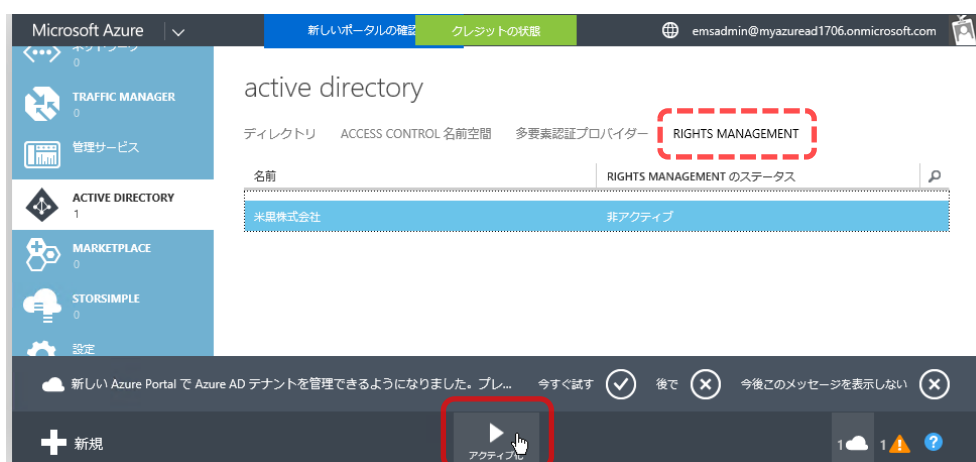




Azure クラシック ポータルによる Azure Rights Management のアクティブ化

Azure Rights Management のアクティブ化は、現時点で Azure ポータルではできませんが、Azure クラシック ポータル (→ <https://manage.windowsazure.com/>) では可能です。それには、Azure クラシック ポータルで [ACTIVE DIRECTORY] の [RIGHTS MANAGEMENT] ページを開き、[アクティブ化] をクリックします。

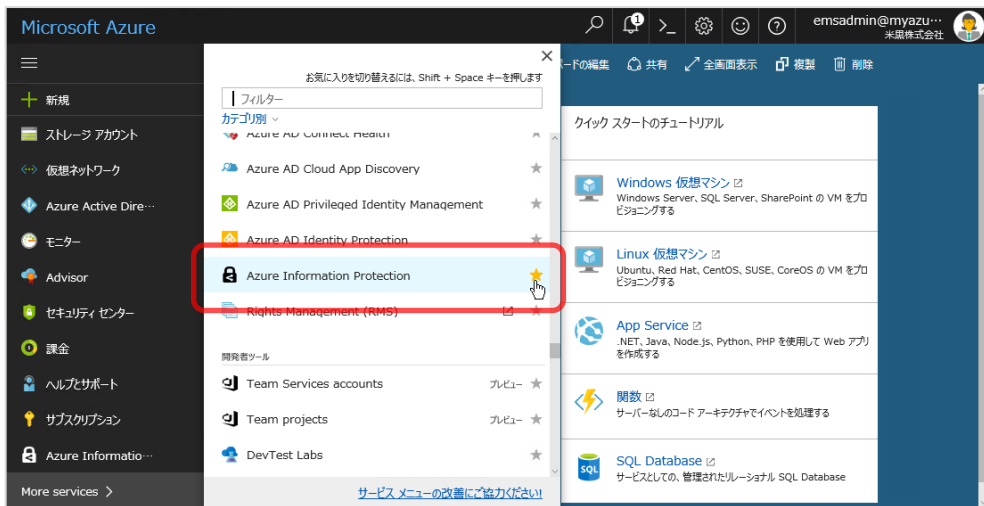
権利ポリシー テンプレートの管理といった、Azure Information Protection 以前からの管理機能は、Azure クラシック ポータルの [ACTIVE DIRECTORY] の [RIGHTS MANAGEMENT] ページから行えます。



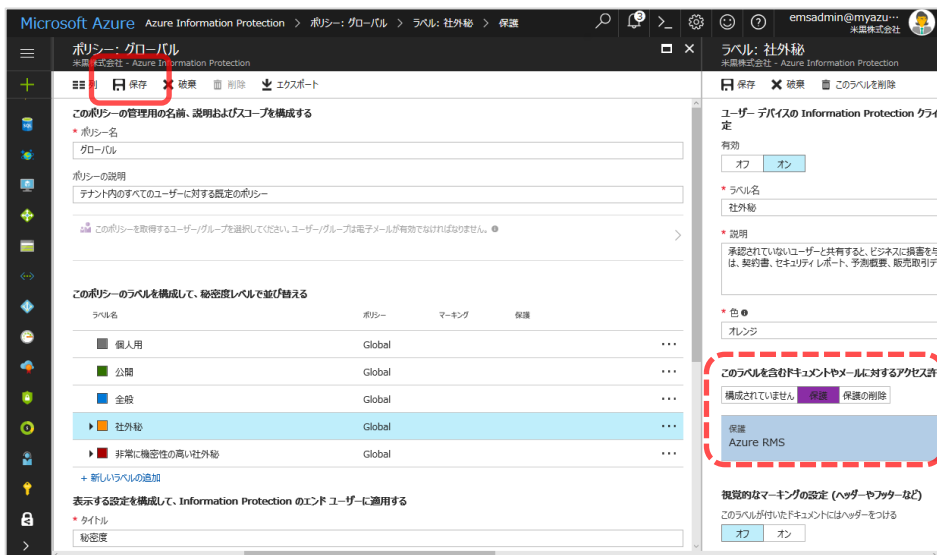
Azure Information Protection サービスの構成

ここまでの手順で、以前の Azure Rights Management (Azure RMS) の機能が利用可能になっています。Azure Information Protection から利用可能になった分類ラベルによる保護機能を利用するには、次の手順で Azure Information Protection のサービスを構成します。

1. Azure ポータル (→ <https://portal.azure.com/>) に、Azure サブスクリプションの管理者アカウントでサインインします。
2. メニューの [>] または [More services >] を展開し、[セキュリティ + ID > Azure Information Protection] をクリックして開きます。[Azure Information Protection] の横にある ★ を選択すると、メニュー項目に [Azure Information Protection] メニュー ブレードをピン留めすることができます。



3. [Azure Information Protection] ブレードに Azure Information Protection クライアントを構成する既定の Global ポリシー (ポリシー名: グローバル) の編集画面が表示されます。[ポリシー名] と [ポリシーの説明] は Azure Information Protection クライアントに表示するタイトルと説明です。必要に応じて、これらのテキストを変更します。
4. 既定で [個人用] [公開] [全般] [社外秘] [非常に機密性の高い社外秘] の分類ラベルとヒントが定義済みになっています。[社外秘] と [非常に機密性の高い社外秘] には、さらに [すべての従業員] と [すべてのユーザー (未保護)] のサブ ラベルが作成済みとなっています。各分類ラベルに対して、ラベル名やヒントをカスタマイズし、ドキュメントやメールの保護の有効化や、保護するのに使用する権利ポリシー テンプレートや自動分類の条件 (自動分類には Azure Information Protection Premium P2 が必要) を設定します。



5. ポリシーの編集が完了したら、[公開] をクリックし、Azure Information Protection クライアントに公開します。



Azure Information Protection アプリのインストール

Azure Rights Management の Azure RMS の保護機能は、Microsoft Office など IRM 対応アプリケーションから利用できます。Azure Information Protection ビューアー アプリ（一部のプラットフォームには、以前の RMS 共有アプリが提供されます）は、マルチ プラットフォーム環境で、さまざまなファイルの種類の暗号化保護、および保護されたドキュメントの参照を可能にします。また、Windows コンピューター向けの Azure Information Protection クライアントは、IRM 対応の Office アプリケーション（Office 365 ProPlus、Office Professional Plus 2010/2013/2016）に Azure Information Protection の分類ラベルを追加するとともに、Azure RMS とオンプレミスの AD RMS に対応した RMS クライアント機能を提供します。

クライアント側での Azure Information Protection

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/information-protection/rms-client/use-client>

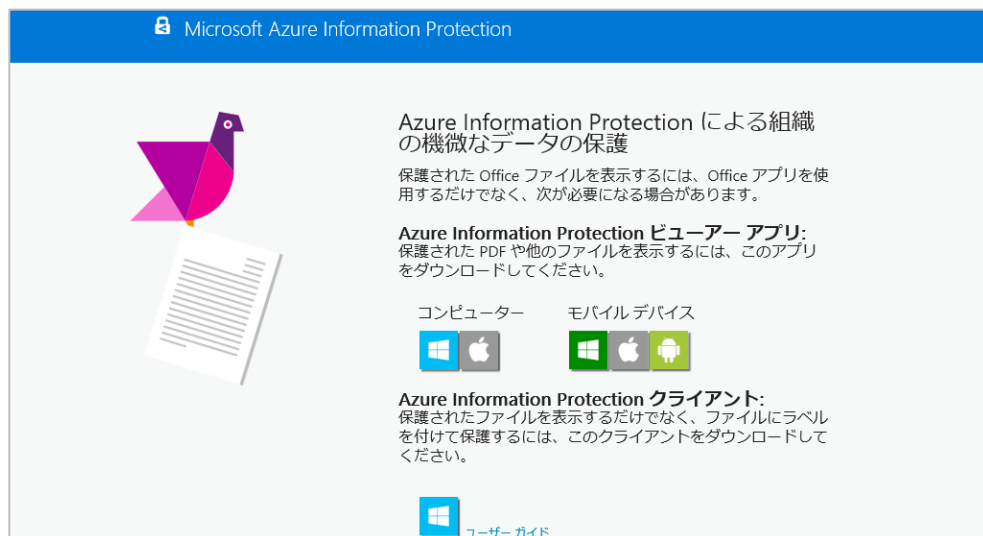
Windows 用 Azure Information Protection クライアント

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/information-protection/rms-client/aip-client>

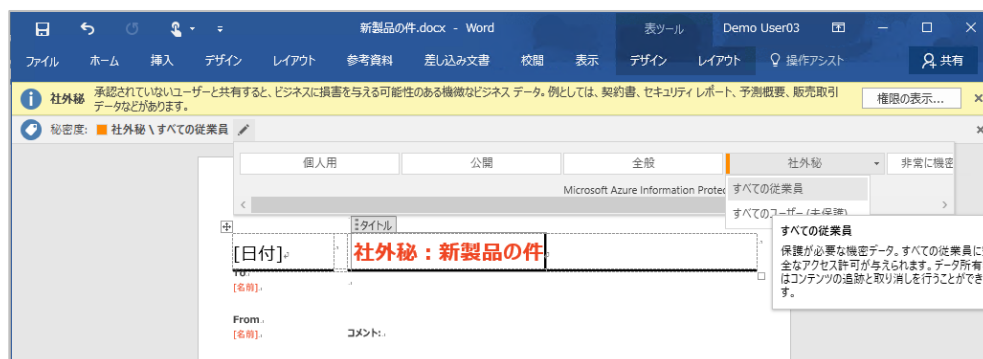
Azure Information Protection ビューアー アプリと Azure Information Protection クライアントは、以下のサイトのリンク先からダウンロードできます。

Microsoft Azure Information Protection

➡ <https://portal.azurerms.com/#/download>



Azure Information Protection の評価のために、IRM 対応の Microsoft Office アプリケーションが必要な場合は、Office 365 Enterprise E3 または E5 プランの 30 日試用版を利用できます。Office 365 Enterprise E3 または E5 の試用版の利用もまた、Office 365 管理センターから開始することができます。



❗ 以前の RMS 共有アプリのアンインストール

Azure Information Protection ビューアー アプリおよびクライアントより前に提供されていた、RMS 共有アプリは、アンインストールすることをお勧めします。Windows の場合は、コントロールパネルの [プログラムと機能] を開き、以下の 3 つのプログラムが見つかった場合は、アンインストールしてください。なお、アンインストールしなくても、新しいアプリの動作に影響はありません。

- Microsoft RMS Office Admins
- Microsoft Rights Management sharing application
- Active Directory Rights Management Services Client 2.1



次のステップ

以上の手順で Azure Information Protection の評価環境を導入できました。

Azure Information Protection を使用したドキュメントやメッセージの保護の手順については、以下の Azure Information Protection のドキュメントを参照してください。

Azure Information Protection のドキュメント | Microsoft Docs

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/information-protection/>

3.4 Cloud App Security の評価を開始する

Cloud App Security とは

Cloud App Security は、企業内から利用されているクラウド アプリのトラフィック ログを収集し、機械学習ベースで分析して、シャドウ IT の発見や潜在的なセキュリティ リスクの評価のためのレポートを提供します。また、承認に基づいたクラウド アプリの利用許可や、クラウド アプリの利用状況の可視化したり、アラート監視といった機能により、データ保護と脅威からの保護を強化します。

ここでは、既を取得済みの組織アカウントの Azure AD ディレクトリに、Cloud App Security の **30 日** 試用版を追加して評価する手順について説明します。

なお、「[2. Enterprise Mobility + Security の評価を開始する](#)」の手順で、Enterprise Mobility + Security E5 試用版および Microsoft Azure 無料試用版にサインアップ済みの場合は、この手順は不要です。Enterprise Mobility + Security E5 には、Cloud App Security が含まれており、単体の試用版よりも長く、**90 日間**評価できます。



Cloud Discovery がサポートするネットワーク製品

Cloud App Security は、Cloud Discovery という機能により、13,000 を超えるクラウド アプリの 50 以上の属性をランク付けおよびスコア付けされたクラウド アプリ カタログに基づいてトラフィック ログを解析します。Cloud Discovery は、データソースとして、広範囲のファイアウォールおよびプロキシ製品のログ形式をサポートしています。Cloud App Security の評価を開始する前に、サポートされるファイアウォールやプロキシを利用しているかどうかを確認することをお勧めします。

Cloud Discovery のセットアップ | サポートされているファイアウォールとプロキシ



<https://docs.microsoft.com/ja-jp/cloud-app-security/set-up-cloud-discovery>

なお、クラウド アプリの検出以外の機能は Cloud Discovery なしで利用できます。例えば、Office 365 など主要な企業向けアプリについては、組み込みのアプリ コネクタを介してアクティビティを監視できます。

Cloud App Security 無料試用版にサインアップする

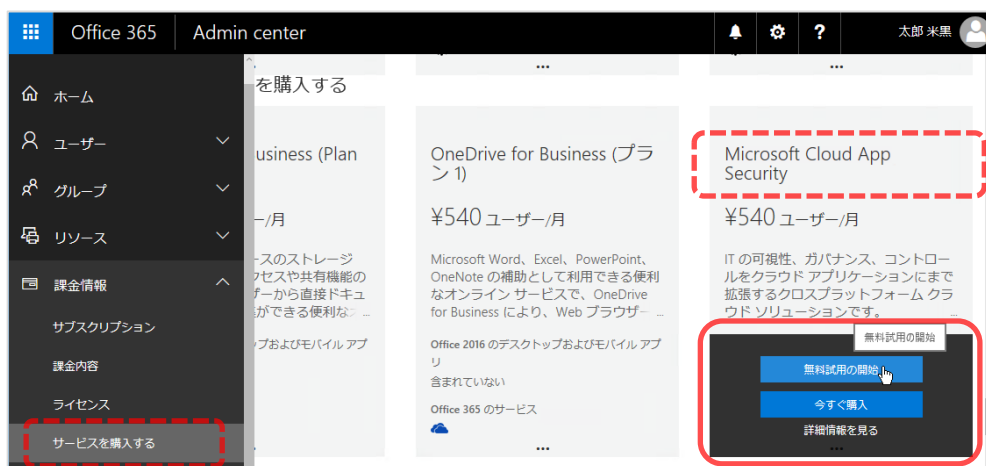
組織用の Azure AD のディレクトリが既にある場合は、次の手順で Cloud App Security 1 か月試用版にサインアップすることで、共通のディレクトリを用いて Cloud App Security の機能を評価できます。

1. Office 365 ポータル (→ <https://portal.office.com/>) に、既に利用中のサービスのテナント管理者または Microsoft Azure 無料試用版のサインアップに使用した組織アカウントの資格情報でサインインします。なお、Office 365 ポータルは、Office 365 サブスクリプションをお持ちでない場合でもユーザーやライセンスの管理のために利用できます。
2. Office 365 管理センターではなく、ユーザー ポータルが表示された場合は、Office 365 ポータルで

[管理者] タイルをクリックし、Office 365 管理センター (Admin center) を開きます。



3. [課金情報] の [サービスを購入する] を展開し、[ホーム > サービスを購入する] の一覧から [Microsoft Cloud App Security] を探します。[Microsoft Cloud App Security] の [...] をクリックし、[無料試用の開始] をクリックします。



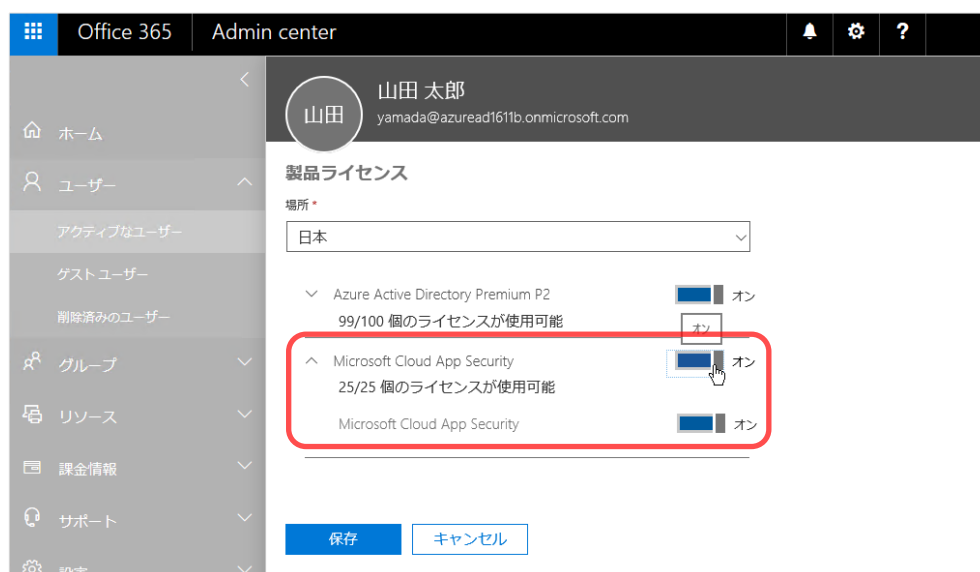
4. [購入手続きへ進む] の [注文の確定] ページが開くので、目的のサブスクリプションの試用版が選択されていることを確認し、[無料トライアル] をクリックします。



5. [注文の受領書] ページが表示されます。この時点で Cloud App Security 試用版が利用可能になったことを通知する電子メールが、テナント管理者の連絡先メールアドレスに送信されます。[続行] をクリックして購入手続きを終了します。



6. Office 365 管理センターに戻るので、[ホーム] の [+ ユーザーの追加] をクリックし、Azure AD のディレクトリに評価用ユーザーを作成して、**Microsoft Cloud App Security** のライセンスを割り当てます。既に作成済みのユーザーがある場合は、[ユーザーの編集] を使用して、製品ライセンスとして **Microsoft Cloud App Security** のライセンスを割り当ててください。



なお、ユーザーの作成とライセンスの割り当ては、Azure ポータルから行うことも可能です。

Cloud App Security ポータルによる構成

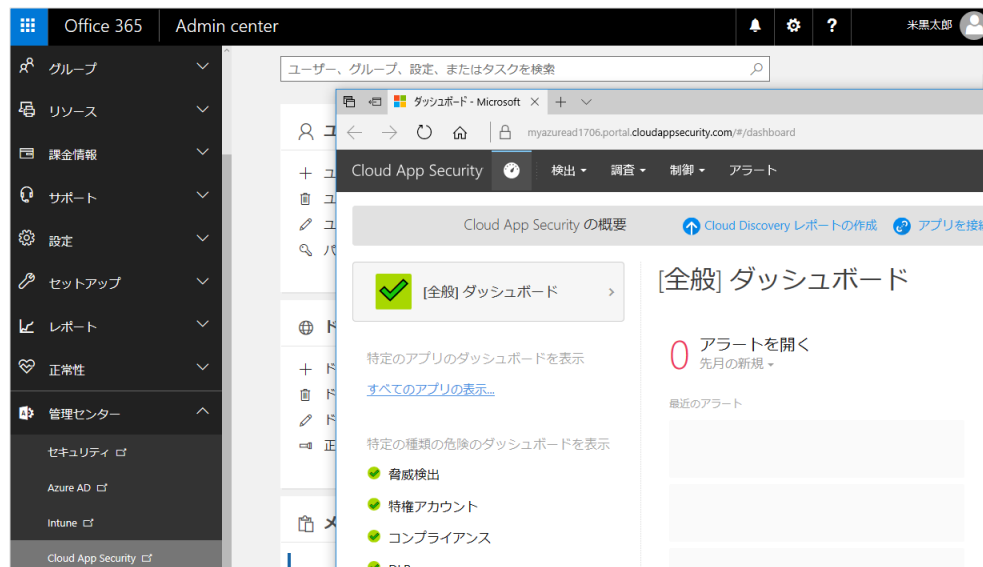
Cloud App Security の利用を開始するには、Cloud App Security のポータルを使用して、ログを収集するための Cloud Discovery のセットアップを行い、その後、アプリ コネクタのセットアップやアプリの承認、ポリシーの作成、監視などを行います。

Cloud App Security のポータルは、Office 365 管理センターの [管理センター > Cloud App Security]

から開くことができます。または、Web ブラウザーで以下の URL を直接開きます。ポータルにサインインすると、URL は **<Azure AD のテナント名>.portal.cloudappsecurity.com** になります。

Cloud App Security のポータル

➡ <https://portal.cloudappsecurity.com/>



次のステップ

以上の手順で Cloud App Security の評価環境を導入できました。

Cloud App Security のポータルでのセットアップやアクティビティの監視については、以下の Cloud App Security のドキュメントを参照してください。

Cloud App Security のドキュメント | Microsoft Docs

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/cloud-app-security/>

4. まとめ

このドキュメントでは、Enterprise Mobility + Security E5 および Microsoft Azure の無料試用版、または Azure AD Premium、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium、Cloud App Security の個別の無料試用版をサインアップし、各サービスの試用を開始するまでの手順を説明しました。各サービスの試用開始後の評価の方法については、「次のステップ」で紹介したドキュメントを参考にしてください。

製品サイト

Azure Active Directory - アクセス & ID - IDaaS | Microsoft Azure

➔ <http://azure.microsoft.com/ja-jp/services/active-directory/>

Microsoft Intune | マイクロソフト クラウド プラットフォーム

➔ <http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/products/microsoft-intune/explore.aspx>

Azure Information Protection | Microsoft

➔ <https://www.microsoft.com/ja-jp/cloud-platform/azure-information-protection>

Enterprise Mobility + Security | マイクロソフト クラウド プラットフォーム

➔ <http://www.microsoft.com/ja-jp/cloud-platform/products-Enterprise-Mobility-Suite.aspx>

ドキュメント

Enterprise Mobility + Security のドキュメント | Microsoft Docs

➔ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/enterprise-mobility-security/>

付録

Enterprise Mobility + Security サブスクリプションのコスト利点

Enterprise Mobility + Security サブスクリプションを使用すると、Microsoft Enterprise Mobility のソリューションに必要な各サービスを簡単に、かつお得なボリューム ディスカウント価格で導入できます。

Enterprise Mobility + Security

➡ <https://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/products-Enterprise-Mobility-Suite.aspx>

次の表は、Enterprise Mobility + Security サブスクリプションで購入する場合と、各サービスを単体で購入する場合の価格を比較したものです（価格は 2017 年 6 月現在）。Enterprise Mobility + Security E3 は、以前は Enterprise Mobility Suite と呼ばれていたもので、2016 年 10 月に新名称に変更され、同時に Enterprise Mobility + Security E5 サブスクリプションの提供が始まっています。

価格（ユーザー/月）	サブスクリプションに含まれる機能	単体価格（ユーザー/月）	
Enterprise Mobility + Security E3 サブスクリプション ¥950	Azure AD Premium P1	¥640	¥2,190
	Microsoft Intune	¥640	
	Azure Information Protection Premium P1	¥220	
	Microsoft Advanced Threat Analytics	¥460	
	Windows Server CAL の使用权	¥230	
Enterprise Mobility + Security E5 サブスクリプション ¥1,610	Azure AD Premium P2	¥950	¥3,340
	Microsoft Intune	¥640	
	Azure Information Protection Premium P2	¥530	
	Microsoft Advanced Threat Analytics	¥460	
	Windows Server CAL の使用权	¥230	
	Microsoft Cloud App Security	¥530	

表：Enterprise Mobility + Security (EMS) ライセンスと個別のコスト比較

※ 上記は 2017 年 6 月時点の情報です。

※ 価格は参考価格です。お客様の購入価格は販売店により決定されますので、販売店にお問合せ下さい。

※ 価格は新規でエンタープライズ アグリーメント (EA) をご契約いただくお客様向けユーザー サブスクリプション ライセンスの EA レベル A の 1 か月の参考価格です。

※ Advanced Threat Analytics の価格は EA Level A、3 years、L+SA を基準にしたおおよその参考価格です。

Enterprise Mobility + Security サブスクリプションは、Office 365 管理センターまたは Azure AD 管理センターからオンラインで直接購入するか、マイクロソフトのエンタープライズ ボリューム ライセンス プログラムを介して入手できます。

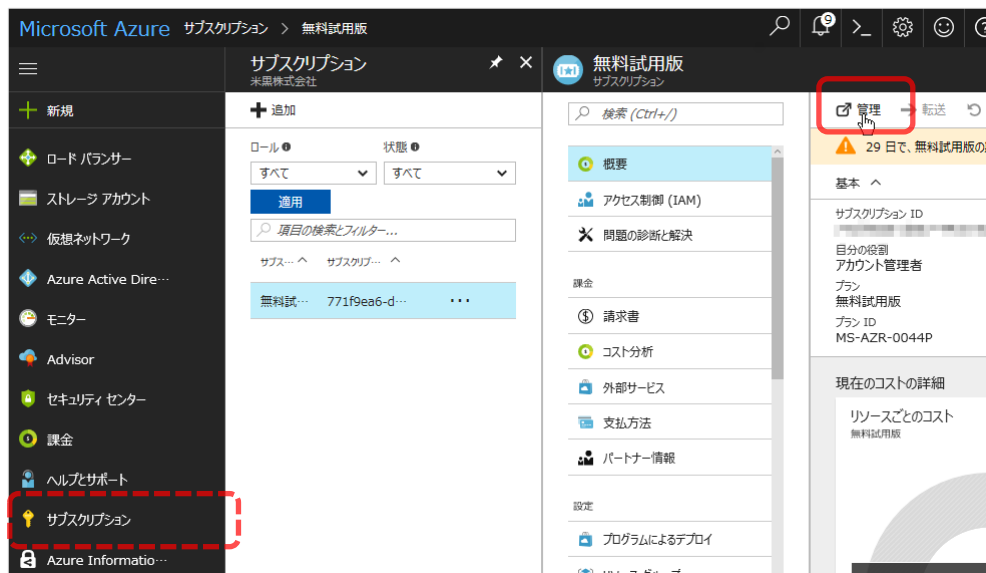
評価版から有料サブスクリプションへの移行について

このドキュメントで説明している試用版のサービスはすべて、展開済みの構成やデータを損なうことなく、有料サブスクリプションに移行することが可能です。有料サブスクリプションは、オンラインで購入する方法とボリューム ライセンス契約で購入する方法があります。ここでは、オンラインで購入する方法を説明します。ボリューム ライセンス契約で購入する場合は、マイクロソフト パートナーのボリューム ライセンス リセラーにご相談ください。また、サービスの購入前にさらに時間が必要な場合は、試用期間を延長できる場合があります。詳しくは、「[付録 試用期間の延長について](#)」を参照してください。

Microsoft Azure の従量課金プランへの移行

Microsoft Azure の機能を 30 日を超えて評価したい場合や、Microsoft Azure のサービスを購入して引き続き利用したい場合は、Microsoft Azure を有料サブスクリプションにアップグレードしてください。なお、Enterprise Mobility + Security E5 試用版や、Azure AD Premium 試用版、Azure Information Protection Premium 試用版に関連する Azure ポータルによる Azure AD の管理については、Microsoft Azure の試用期間を超え、サブスクリプションが無効化されても、引き続き利用可能です。

1. Microsoft Azure の有料サブスクリプションにアップグレードするには、Azure ポータル (→ <https://portal.azure.com/>) に無料試用版をサインアップした組織アカウントの資格情報でサインインし、[サブスクリプション] ブレードから [無料試用版] のページを開いて [管理] をクリックします。



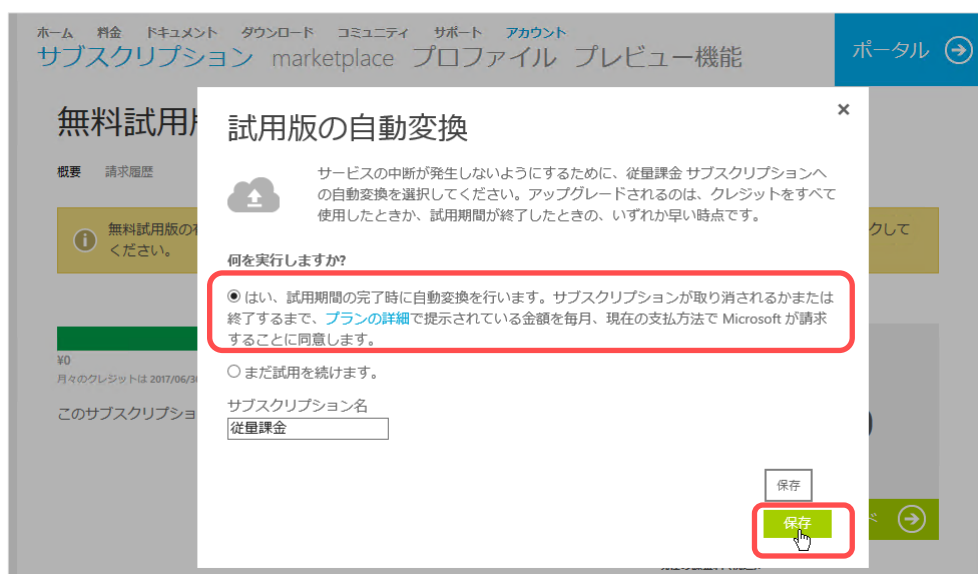
すると、アカウント ポータルのサブスクリプション ページが開きます。Azure ポータルから操作する代わりに、アカウント ポータル (→ <https://account.windowsazure.com/>) に直接アクセスして、サインインすることもできます。

2. アカウント ポータルの [サブスクリプション] ページで、[無料試用版の有効期間があと XX 日で終了します。サービスを中断せずに、従量課金へ自動変換するには、こちらをクリックしてください。] のリンクをクリックします。または、サブスクリプションの状態の下にある [今すぐアップグレード →]

をクリックします。



3. [試用版の自動変換] ダイアログ ボックスで [はい] を選択し、[保存] をクリックします。以上の操作により、現在の試用期間が完了すると、従量課金制のサブスクリプションに自動的に移行できます。



なお、Microsoft Azure を有料サブスクリプションに移行しても、課金対象のサービスを利用しない限り、課金は発生しません。利用無料試用版の有効期限が切れる前に有料サブスクリプションにアップグレードしても、評価期間が終了するまで無料試用版に含まれる未使用のクレジットは引き続き利用可能です。また、無料試用版の有効期限が切れた場合でも、サブスクリプションのデータは少なくとも 90 日間保持されます。データが完全に削除される前であれば、有料サブスクリプションにアップグレードすることが可能です。

Enterprise Mobility + Security のオンライン購入

Enterprise Mobility + Security E5 (Azure AD Premium、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium などを含む) の評価期間は 90 日間です。お客様のデータは、評価期間の終了後、少

なくとも 90 日間保持されます。それまでは、データを維持したまま有料サブスクリプションに移行できます。

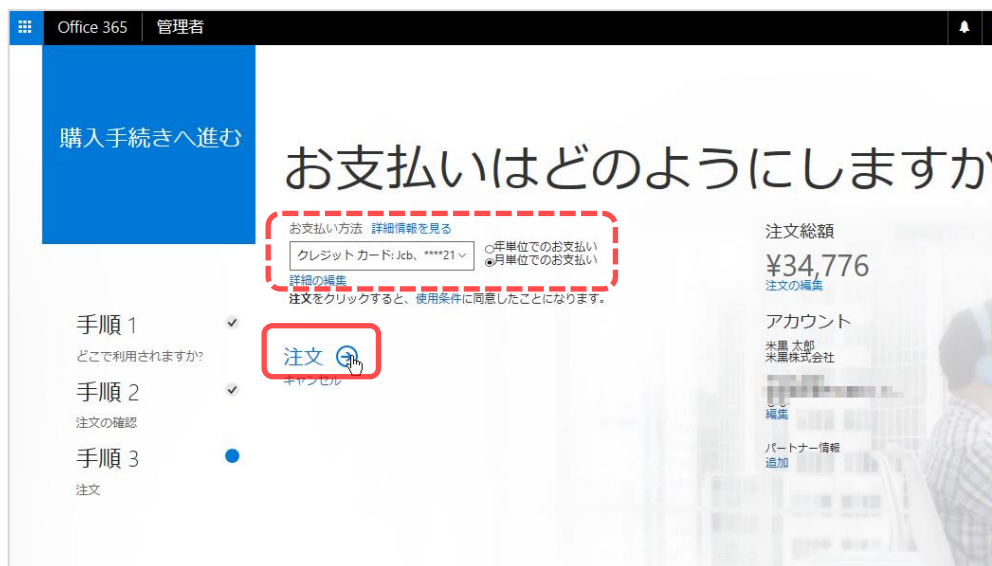
1. Enterprise Mobility + Security E5 の有料サブスクリプションに移行するには、Office 365 管理センター (→ <https://portal.office.com/>) にテナント管理者の組織アカウントでサインインし、[課金情報 > サブスクリプション] ページを開きます。
2. アクティブなサブスクリプションの一覧から [Enterprise Mobility + Security E5 Trial 試用版] を選択し、[今すぐ購入] をクリックします。なお、評価した結果、Enterprise Mobility + Security E5 ではなく、Enterprise Mobility + Security E3 を導入する場合は、[サービスを購入する] から [Enterprise Mobility Suite Direct] を選択して、[今すぐ購入] をクリックしてください。



3. [購入手続きへ進む] ページが開くので、指示される手順に従って情報を入力し、購入するライセンス数を入力して、[次へ →] をクリックします。



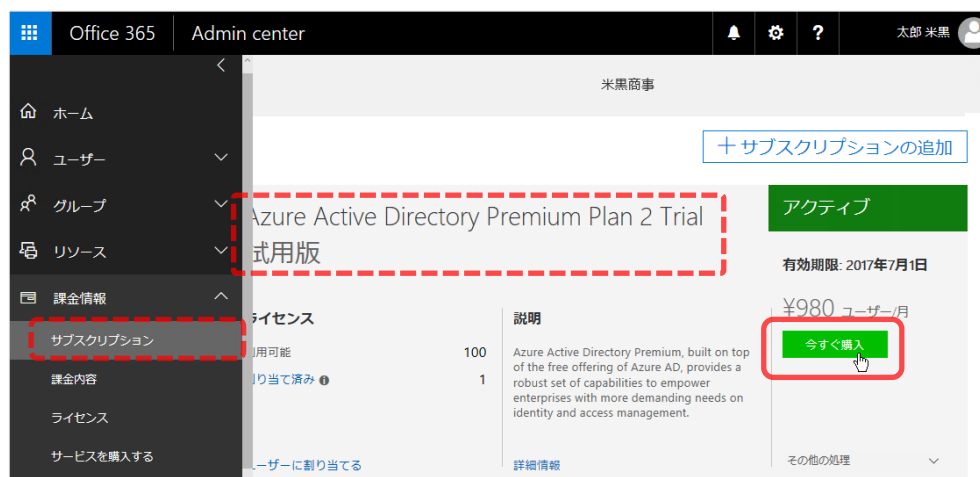
4. [お支払いはどういたしますか?] のページが開くので、支払い方法を指定し、[注文 →] をクリックします。



個別のサービスのオンライン購入

Azure AD Premium P1/P2、Microsoft Intune、Azure Information Protection P1/P2、Cloud App Security、および Office 365 Enterprise E3/E5 の評価期間は 30 日間です。お客様のデータは、評価期間終了後、少なくとも 90 日間保持されます。それまでは、データを維持したまま有料サブスクリプションに移行できます。

1. 個別のサービスの試用版を有料サブスクリプションに移行するには、Office 365 管理センター (→ <https://portal.office.com/>) にテナント管理者の組織アカウントでサインインし、[課金情報 > サブスクリプション] ページを開きます。
2. アクティブなサブスクリプションの一覧から購入対象の試用版ライセンスを選択し、[今すぐ購入] をクリックします。



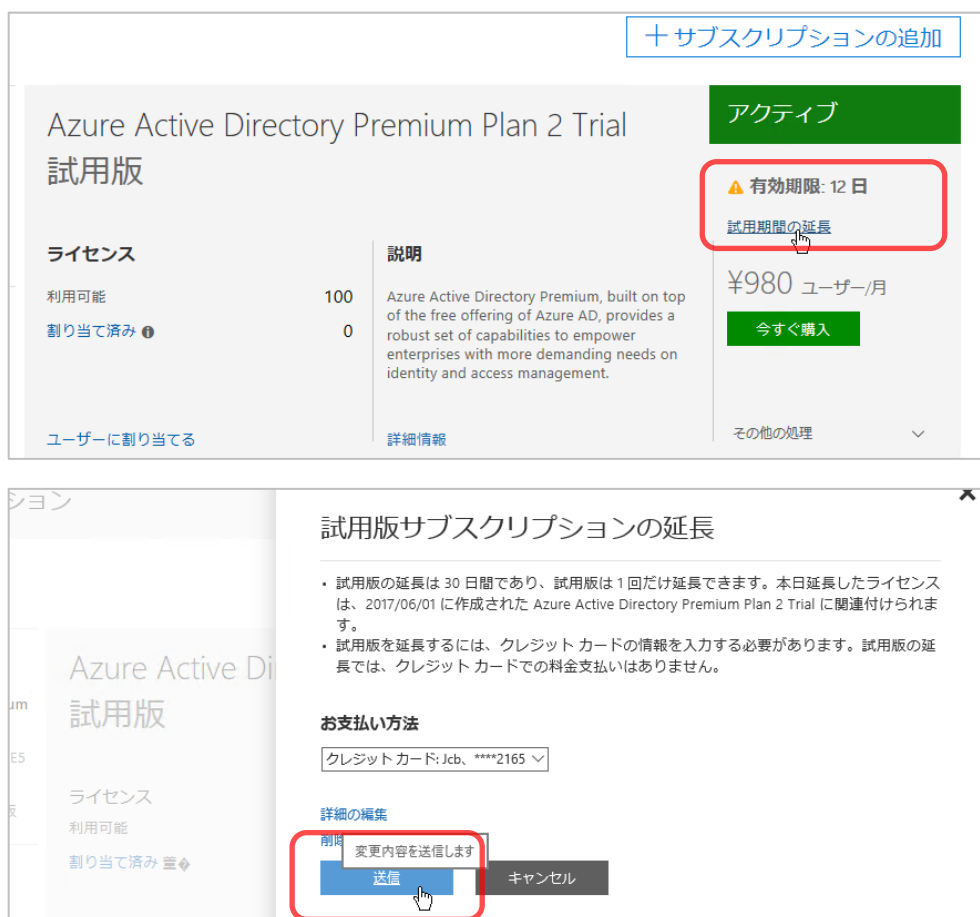
3. [購入手続きへ進む] ページが開くので、購入するライセンス数と支払い方法を指定し、[注文 →] をクリックします。

試用期間の延長について

サービスの購入前にさらに時間が必要な場合は、試用期間を延長できる場合があります。

Enterprise Mobility + Security、Azure AD Premium、Microsoft Intune、Azure Information Protection Premium、Cloud App Security、および Office 365 Enterprise の各試用版については、試用期間を延長できる場合があります。試用版の期限が切れるまでの期間が 15 日以内で、まだ試用版の延長をしていない場合は、次の方法で試用期間をさらに 30 日間延長できます。なお、この方法で延長できるのは 1 回限りです。

1. Office 365 管理センター (→ <https://portal.office.com/>) にテナント管理者の組織アカウントでサインインし、[課金 > サブスクリプション] ページを開きます。
2. [サブスクリプション] ページで、アクティブなサブスクリプションの一覧から延長したい試用版のサブスクリプションを選択し、[試用期間の延長] をクリックして、ウィザードの手順に従います。



試用期間をさらに延長するには

お客様は、Office 365 管理センターの [サポート] ページから、サービス リクエストを送信することで、さらなる試用期間の延長を依頼することもできます。それには、[新しいサービス リクエスト] のフォームで [機能: サブスクリプションと試用版]、[現象: 試用版の質問] を選択し、延長の理由を記載したサービ

ス リクエストを作成し、要求を送信してください。



多要素認証 (MFA) で組織アカウントの保護を強化する

Azure AD (および Office 365) は、多要素認証 (Multi-Factor Authentication: MFA) をサポートしています。Azure AD の多要素認証については、以下のドキュメントで説明されています。

Azure Multi-Factor Authentication とは | Microsoft Docs

➔ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/multi-factor-authentication/multi-factor-authentication>

Microsoft Azure の管理者アカウント、および Azure AD のアカウントは、既定では電子メール アドレス形式の ID とパスワードによる認証で、ポータルやサービスにアクセスすることができます。そのため、ID とパスワードは厳重に管理する必要があります。特に Microsoft Azure の管理者アカウントについては、ID とパスワードが漏れてしまうと、Microsoft Azure のテナントの管理機能を奪われてしまうため重大です。多要素認証を利用することで、ID の保護を大幅に強化できます。

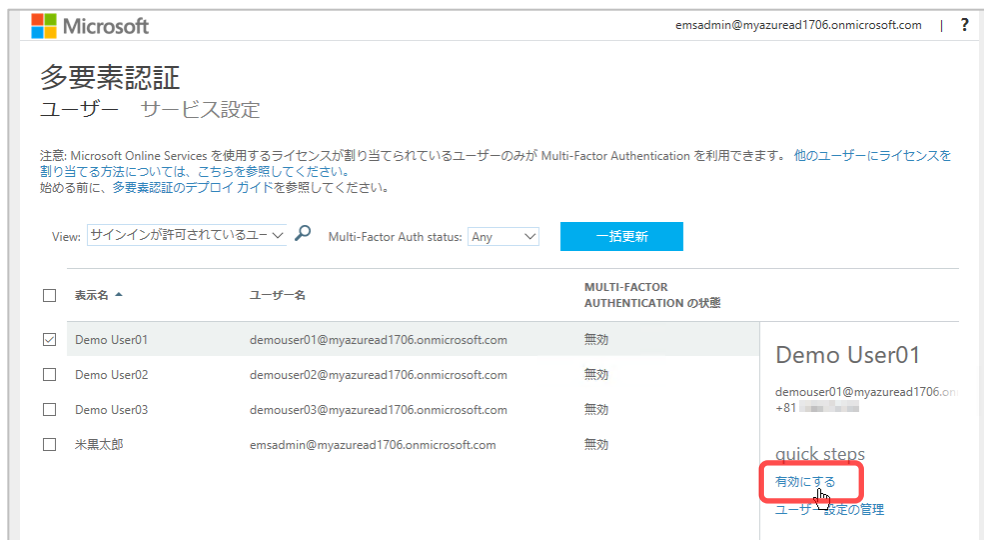
Microsoft Azure の管理者アカウントの多要素認証については、追加のライセンスなしで有効化できます。Azure AD に作成した管理者以外の組織アカウントについては、Azure AD Premium の一部として多要素認証が提供されます。

Azure AD の組織アカウント (管理者および管理者以外) では、次の手順で多要素認証を有効化できます。

1. Azure ポータル (➔ <https://portal.azure.com/>) に無料試用版をサインアップした組織アカウントの資格情報でサインインし、[Azure Active Directory] ブレードを開きます。
2. Azure AD のディレクトリの [ユーザーとグループ] [すべてのユーザー] の順番に開き、[Multi-Factor Authentication] をクリックします。



3. Azure クラシック ポータルの [多要素認証] ページが開くので、多要素認証を有効化するユーザーをチェックし、[有効にする] をクリックします。



4. 多要素認証を有効化すると、Office 365 のポータル (→ <https://portal.office.com/>) やアクセス パネル (→ <http://myapps.microsoft.com/>) の次のサインイン認証時に、追加のセキュリティ検査の設定を要求されます。[今すぐセットアップ] をクリックして、利用可能な検証オプションを構成します。



標準では、認証用電話（携帯電話や固定電話）へのテキスト メッセージ（SMS）または音声による通知、会社電話への通知（ユーザーのプロファイルで [会社電話] に電話番号が設定されている場合にのみ構成可）、またモバイル アプリ（Android、iOS、Windows 10 Mobile 用の Microsoft Authenticator アプリ）による確認のいずれかの方法を構成できます。

追加の検証方法を構成すると、次回のサインイン時から多要素認証が要求されるようになります。

Azure AD ポータルの条件付きアクセス

Azure AD Premium で、Azure AD の管理コンソールへの、デバイスや Azure MFA、IP アドレスなどに基づいた条件付きアクセスを可能にする機能が利用可能になりました。この機能は、Azure ポータルまたは Azure AD 管理センターでディレクトリの [エンタープライズ アプリケーション > 条件付きアクセス] から設定できます。詳しくは、以下のドキュメントを参照してください。

Azure Active Directory の条件付きアクセス

➡ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/active-directory-conditional-access-azure-portal>

条件	制御
ユーザーが会社のネットワーク外にいる場合	多要素認証を使用してサインインする必要があります
'マネージャー' グループのユーザーがサインインする場合	Intune 準拠デバイスまたはドメインに参加しているデバイスを使用し